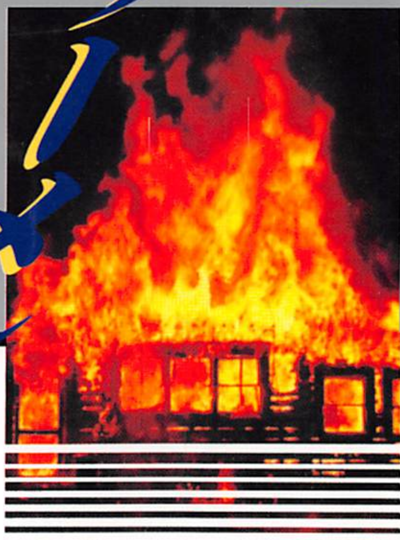
奇跡のエンパワーメント

その瞬間、人の魂に宿る不思議な力が目を覚ます





AUM Public Relations Editorial Staff

奇跡のエンパワーメント

その瞬間、人の魂に宿る不思議な力が目を覚ます

AUM Public Relations Editorial Staff

プロローグ

それはあたかも厳かで神聖なある種の儀式を彷彿させるようなものだった——。

辺りはまさに「神聖な」という形容がぴったりの、神秘に満ちた不思議な緊張感に包まれていた。そんな雰囲気の中、久しぶりに味わう心地良い緊張感を半ば楽しみながら、係の方に誘導されるままに同じ目的で集った人々がつくる長い列の最後方に並んだ。

はるか前方に視線を向けると、列をつくっている同胞

たちが一人また一人と目的を達していく姿が見える。そして、その度にわたしとその方の距離は自然と短くなっていくのだった。

はた目から見れば、人々が行き交うときに生じる喧騒が騒然としたイメージを与えるに違いない。しかし、その実、厳粛な面持ちでその瞬間を待つ者たちの心は、周囲の喧騒とは裏腹に、不思議なことに徐々に寂静の境地へと導かれるのだった。

『おそらくこの空間が発する独特の雰囲気がそうさせているのだろうか?』

そんなことをあれこれ考えていると、初めは三十メートルほどあったその方との距離がなくなるのに、そう時間はかからなかった。

いよいよわたしの番だ――。

高弟らしき方に言われるままにその方の前に座ると、屈強そうな右手がわたしの頭にのせられ、まるで何かの印を刻むかのように額に親指が当てられた。その瞬間、何ともいえない安心感、安堵感のようなものが心の中に広がっていくのがわかった。

『あれ、これは何だろう?』

その方が発する何ともいえない心地良いヴァイブレーションに心を合わせると、尾てい骨から背中を通り頭頂に向かって、何やら熱いものが自然とこみ上げていくのがわかった。その熱いものに意識を集中すると、まるで夜が明けるように目の前が徐々に明るくなり、いつしか眼前に光の世界が広がっていった。それは目を閉じてい

るのが嘘のような、美しい光に満ちた素晴らしい光景だった。

「時間です!」

初めて味わう恍惚感を引き裂く高弟らしき方の声が響く。その声を合図に、無情にもあの方の手がわたしの頭から離れていくが、先程から見ていた光は弱まりはしたものの、以後その輝きを完全に失うことはなかった。わたしの記憶の中には異世界とつながったあの瞬間の強い印象がいつまでも残り、まるでろうそくに火が灯されたように、この日を境に心の中で何かが変わっていくのが自分でもわかった……。

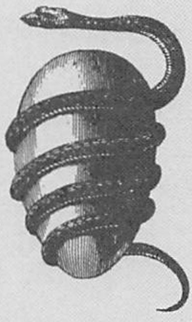
わたしが望んでいた神秘世界へ通じる扉は、まさにこ

の麻原尊師からエンパワーメントを受けた瞬間、音もなくゆっくりと開かれたのだった——。

目次

奇跡のエンパワーメント

その瞬間、人の魂に宿る不思議な力が目を覚ます



●プロローグ 3



第一部 奇跡のエンパワーメント

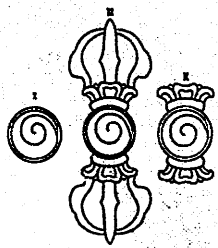
第一部 奇跡のエンパワーメント 13

I 解脱・悟りに不可欠なエンパワーメント 14

II 秘儀シャクティーパットの真実 35

III 覚醒への第一歩、五大エレメントのエンパワーメント 97



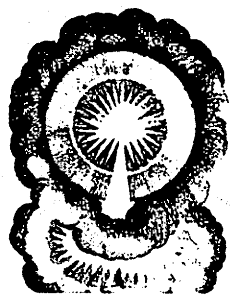


第二部　開かれた神秘世界の扉
——奇跡のエンパワーメント体験談集

121

I　神秘世界へいざなう奇跡のエン・パワーメント　122

II　わたしを神通力者にしたエン・パワーメントの奇跡　133





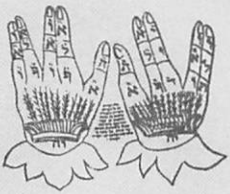


III すべてを思いのままにする奇跡のエンパワーメント 143

IV 幸福を呼ぶ奇跡のエンパワーメント 158

V 不治の病をも治す奇跡のエンパワーメント 168

●エピローグ 178



第一部

奇跡のエンパワーメント



I 解脱・悟りに不可欠なエンパワーメント

◉エンパワーメントってなに?

エンパワーメント——。その言葉の響きから、皆さんはいったいどのようなものを連想されるだろうか? 神秘世界や精神修行に興味をお持ちの方なら頭をよぎるイメージもそう遠からぬものに違いないが、初めてこうしたものに触れる方々には全く見当もつかないものなのかもしれない。

一言で説明するならエンパワーメントは、「エネルギー移入」という言葉に置き換えて表現することができる。しかし、それはお腹のすいている人に飲食物を与えたりするような単純なものではなく、霊的指導者たるグルが修行を進めさせるために弟子に対して行なう、自らが厳しい修行によって得た体験を伝授するた

めの神聖なエネルギー移入なのである。そして、そのエネルギーを受けた弟子は、自分だけの力で達成するならそれこそ何十年という時を必要とする霊的体験を、グルのエネルギーを借りて容易になし、心の成熟をなし、解脱あるいは悟りという最高の境地にまた一歩近づくことができるのである。

その昔、インド仏教の成就者ナーガールジュナが大いなる覚醒をなしたのは、彼がグルからもらった神聖なエネルギーが入ったリンゴを口にした瞬間だった。また、チベット仏教カギュ派の開祖ティローパが弟子のナローパを覚醒させた方法は、自分が履いていた靴で彼の頭を殴りつけるというものだった。形こそ違え、これらはすべてエンパワーメントの一例として現代に伝えられている。

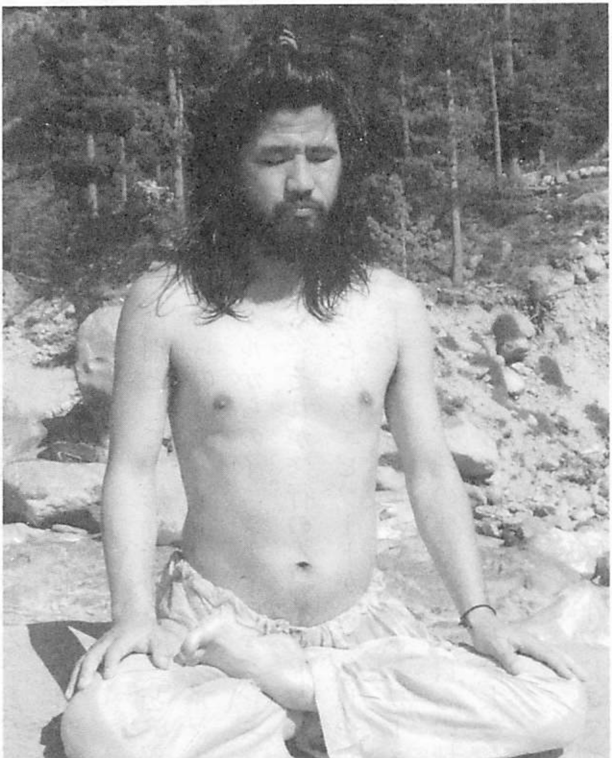
いかなる魂も本来、神秘に満ちた不思議な力を有しているものである。人の魂に宿る不思議な力、これを先人たるグルの神秘力を借りて発現、覚醒させる。まさにこのエンパワーメントは、解脱や悟りを目指す修行者たちにとってはステージアップをはかる上で絶対に欠かせないイニシエーション（秘儀伝授）なので

ある。

◉グル探しに一生を費やす!?

ところで、修行者の中には一見するとグルの力を借りず、つまりエンパワーメントを必要とせずに自力のみで霊的ステージアップ、精神的ステージアップをはかっているかのように見える魂も存在する。ここに登場するオウム真理教の麻原彰晃尊師なども その一人である。仙道、仏教、ヨーガなどの修行に取り組むこと八年、一九八六年ヒマラヤで最終解脱を果たした麻原尊師は、この人間界にグルを持たず、ほとんど自力で最終ステージまで至った。過去にもあまり類を見ない、まさに非凡なケースである。

しかし、これらのケースはあくまでも例外、特例であることはいうまでもない。なぜならこうした魂は今生、つまり現在のこの人間としての人生という短いタイムスケールではなく、長い輪廻転生の中で激しい修行を続け、前生、前々生から



仙道・ヨーガ・仏教などの修行に打ち込むこと八年、麻原尊師は1986年ヒマラヤでついに最終解脱を果たした。

高い成就をなし、人間のグルを必要としない魂だからである。ただ、そんな魂である麻原尊師にも、正しい道を指し示してくれる〝異世界のグル〟が存在していたことは余談ながらつけ加えておくことにする。

そして、彼らのような特別な魂は別として、修行者の多く（というより「ほとんど」といった方が正確だが）は自らの霊的・精神的ステージアップをはかる上で偉大なグルを必要とし、偉大なグルからのイニシエーション、エンパワーメントというものを必要とするのである。それが修行の本場インドなどでは、「最高のグル探しに一生を費やした」などというエピソードがまことしやかに伝えられているゆえんでもある。高いステージにあるグルのなすエンパワーメントは必ず高い霊的・精神的体験をもたらす。そして、その体験こそが自らの精神性を飛躍的に高めてくれるものに他ならないのだから、修行者たちが偉大なグルを探すのにそれだけ時間を費やすのも当然というわけだ。

もちろん、それなりの時間を費やせば自力でそのステージにまで到達すること

も決して不可能ではない。しかし、前に述べたような不放逸な非凡な魂のように輪廻転生という長いタイムスケールで修行を考え、輪廻転生を繰り返しながら徐々にステージアップをはかっていけるだけの修行の機根を持ち合わせた魂がどれほどいることか……。結果、今生という短い時間の中でできる限りのステージアップを考える上で、最高のグルからのイニシエーション、エンパワーメントが不可欠になるのはいうまでもない。

ここでのポイントは「修行を進める上で偉大なグルが必要不可欠」「指導者たるグルは力があればあるほどいい」ということだが、オウム真理教では麻原尊師の指導の下、これまでにラージャ・ヨーガ、クンダリニー・ヨーガ、その上のマハー・ムドラー、大乗のヨーガ（各ステージの詳細については別項参照）の成就者を含めてすでに三百人を超える成就者を輩出してきた。修行の本場インドでさえラージャ・ヨーガの成就者は十年に一人出るか出ないかといわれているほど。この一つの例からでも、麻原尊師のグルとしての力のすごさがよくご理解いただ

COLUMN—1

◎最終解脱に至るまでの六つのヨーガ

一、ラージャ・ヨーガ

強靭な意志力を背景としたヨーガ。現在のインド・ヨーガでは、このラージャ・ヨーガが主流である。ただし、インドでは十年に一人、二人しか成就しないといわれている。

二、クンダリニー・ヨーガ

生命エネルギーのヨーガ。尾てい骨に眠るクンダリニー・エネルギーの覚醒、上昇によって煩悩を昇華する。

三、ジュニアーナ・ヨーガあるいはマハー・ムドラー

分析智のヨーガ。自らの煩悩を思索によって分解する。このヨーガの成就をもって小乗の完成とされる。仏典でいう〝阿羅漢〟の境地。

四、大乗のヨーガ

三つのヨーガの成就をベースに、四無量心（聖慈愛・聖哀れみ・聖称賛・聖無頓着）の実践をなすヨーガ。

五、アストラル・ヨーガ

報身のヨーガともいう。この段階まで

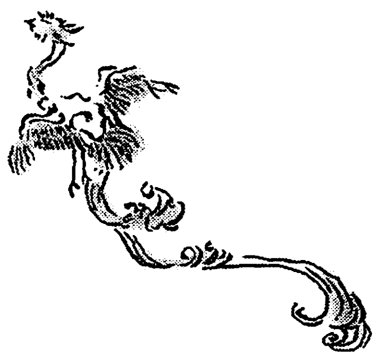
来ると、「魂の救済」以外には全く頓着がなくなる。

六、コーザル・ヨーガ

コーザルでデータの入れ替えを行なうヨーガ。このヨーガを完成して最終解脱をすると、すべてが自由になる。

現在オウム真理教ではラージャ・ヨーガの成就者が約百五十名、クンダリニー・ヨーガの成就者が約百名、マハー・ムドラーの成就者が八名、大乗のヨーガの成就者が三名存在する。

マハー・ムドラー、大乗のヨーガの成就者の体験は、『ザ・サマディ』『原爆覚醒』『マハー・ムドラー』（いずれもオウム出版）などを参照していただきたい。



けるだろう。

◉解脱・悟りへのステップ

話をエンパワーメントそのものに戻そう。エンパワーメントを受けた弟子はグルから高い神秘体験、精神的体験を与えられることになるが、その霊的体験の中にはおそらく皆さんが一番興味をお持ちの「人間の能力をはるかに超えた力」——〝神通力(じんつうりき)〟のような体験も含まれるのはいうまでもない。また、エネルギーの受け手が修行よりも現実生活に興味のある場合、願望成就が起こったり、驚くような才能が目覚めたりするのである。

無論、ここに至るまでには本来、なぜそのような力が身につくかその理論的説明がなければならないのかもしれない。しかし、それらの類いの話は弊社から出ている『超能力秘密の開発法』（麻原彰晃著　B6判　980円）や『超越神力』シリーズ（麻原彰晃著　B6判　PART1天耳通・他心通980円、PART2前生を知れ！　死生智の

秘密980円、PART3完全なる絶対なる神の叡智、漏尽通550円、PART4わたしは見た！これが尊師の超越神力570円）などをご覧になって納得していただくことにして、ここでは論より証拠、麻原尊師のエンパワーメントを受けて〝覚醒〟した方々のそのときの様子をわかりやすい例を挙げて紹介することにしよう。

まずは、一番弟子の聖者マハー・ケイマ最上善逝（※名前は成就者に与えられるホーリー・ネーム＝宗教名）を覚醒させたときの話から――。

大乗のヨーガを成就し、現在、「正大師」あるいは「最上善逝」という称号で呼ばれ、多くの人々から敬愛されている聖者マハー・ケイマ最上善逝。しかし、わずか数年の間に驚異的なステージアップをはかった彼女のケースもやはりグル麻原尊師のエンパワーメントなしには語ることができない。麻原尊師に初めて出会ったとき〝普通のOL〟だった彼女が大いなる覚醒を果たした瞬間というのはいったいどのようなものだったのか？　以下はオウム真理教の教団機関誌『マハーヤーナ』第二号（一九八七年九月十日発行）に掲載された彼女のクンダリニー・ヨー

ガ成就体験記からの抜粋である。

先生がいらっしゃった。

「今日、必ず解脱するぞ。」

とおっしゃった。

そして、最後のイニシエーション（※エンパワーメントを含めた秘儀伝授）を与えてくださった。強烈なエネルギーだ。頭に気が集まっている。

修行を開始する。まだ、頭頂部にエネルギーの塊がある。グルのエネルギーが、そのまま残っているらしい。ツァンダリーのプラーナーヤーマではダメだ。グルのエネルギーがとけない。ものすごく強いエネルギー体だ。強い刺激を与えなければと思い、すぐにヴァヤヴィヤを始めた。三十分くらい行なって、ツァ



聖者マハー・ケイマ最上善逝。彼女の成就も麻原尊師のエンパワーメントなしには語れない

ンダリーのプラーナーヤーマに入った。

快感が走る。震動する。しびれる。そして、太陽の光のようにまぶしく、ものすごく強い、明るい黄金色の光が頭上から眼前にかけて昇った。

金色の光が、雨のように降り注いでいる。そして、その光の中で、わたしは至福感に浸っていた。

この太陽は、その後何回も昇り、そして最後に黄金色の渦が下降し、わたしの身体を取り巻いた。

このとき、わたしは光の中に存在していた。いや、真実のわたしは光そのものだったのだ。その空間の中に、ただ一人わたしはいた。ただ一人だが、すべてを含んでいた。本当の幸福、真実の自由は、わたしの中にあることを悟った。真実のわたしは光の身体であって、肉体でないことを悟った

——真実のわたしは、光であることを知った——。

このエンパワーメントを受けた直後、彼女はクンダリニー・ヨーガの解脱を果たした。もちろん、それはこのときのたった一度のエンパワーメントのみで解脱を果たしたという意味ではない。彼女がここに至るまでに、何回、何十回と麻原尊師からのエンパワーメントを受け続けてきたことも事実で、その度重なるエンパワーメントによって解脱の種子を植えつけ、そして、このときの最後の強烈なエネルギー移入で一気にクンダリニー・ヨーガの解脱というステージに到達したと考えるのがむしろ妥当である。一つのヨーガを成就するのは、それほど難しいことなのである。

ただ、逆にいうなら、〝普通のＯＬ〟から大いなる覚醒へと導かれたマハー・ケイマ最上善逝のケースは、偉大なグルに師事してエンパワーメントを受け続け

ることでだれにでも、大いなる覚醒に導かれる可能性、チャンスが存在していることを教えてくれる。

ともあれ、解脱や悟りといったものを目指す者たちにとっていかに麻原尊師のエンパワーメントが魅力的なものか、一つの事例からあらためてご理解いただけたことと思われる。

◉すべてが思いのままに!?

「修行になんか興味はない。わたしは超能力を身につけたいんだ!」

「いや、わたしは願望をかなえたいからエンパワーメントを受けるんだ!」

麻原尊師のエンパワーメントを受ける人の中にはこんな人たちも存在する。もちろん、これは尊師の側から見れば本意ではないが、逆にいえば、それは尊師のエンパワーメントに秘められた不思議な力の証明かもしれない。

もともと人の魂には別項のような不思議な力が内在している。これらは本来、

だれもが潜在的に持っている能力で、だれでも修行によって発現させることができるわけである。ところが、尊師のエンパワーメントには、その力を容易に発現させてしまう力があるらしい。次に挙げるチューラガヴァッチャ正師（※クンダリニー・ヨーガの成就者）のケースなどはその典型である。

そもそも彼がオウム真理教に入信した動機というのは、「シャクティーパットを受けて超能力を獲得し、ギャンブルに勝ちたい」というものだった。シャクティーパットというのは、オウム真理教でも最高峰に位置するエンパワーメントのこと（後ほど詳しく述べる）。入信直後に麻原尊師からこのシャクティーパットを受けた彼はその効果に大変驚いたそうだ。

当時、彼が特に凝っていたのは競馬だったが、シャクティーパットを受けた後に何気なく予想表を見ていると、突然、目の前で不思議な現象が起こった。

C O L U M N — 2

◉六神通

・神足通（じんそくつう）

空中浮揚やテレポーテーションを行なったり、高い世界へ飛んだりすることのできる能力

・天耳通（てんにつう）

神々の声を聞いたり、普通の人間なら聞くことのできないほど遠くの音を聞いたりする能力

・他心通（たしんつう）

他人の心を知る能力

・宿命通（しゅくみょうつう）

前生を知る能力

・天眼通（てんげんつう）

一般に遠隔透視能力といわれているが、これは北伝系仏教の間違いであって、実際には南伝仏教のいう死生智（ししょうち）のこと。

死生智とは転生先を知ったり、生きながらにしていろいろな世界とつながる能力

・漏尽通（ろじんつう）

完全なる絶対なる神の叡智（えいち）

仏教では、修行を行なうことによって、これら「六神通」と呼ばれる神秘的な力が身につくとされている。
この「六神通」について詳しく知りたい方は、以下の本を参照していただきたい。
『超越神力ＰＡＲＴ１　天耳通・他心通』
『超越神力ＰＡＲＴ２　前生を知れ！死生智の秘密』『超越神力ＰＡＲＴ３　完全なる絶対なる神の叡智、漏尽通』
（いずれもオウム出版・麻原彰晃著）



新聞を見ていると、ある馬のところだけがなんとボワーッと黄色く浮き上がって見えるのである。
「これや！」
と確信した彼がその馬券を買うと、これがまた必ずといっていいほど見事に的中。そんなことが以後、何度も続いたそうだ。
さらに、エンパワーメントがなす〝奇跡〟はそれだけではなかった。フラッと立ち寄ったパチンコ屋でのこと。落ちている玉を何個か拾って当時すでに主流となっていたフィーバー機に挑戦するや、わずか数回の入賞であっという間に数字がそろって大当り。これとて一度や二度のことではなかった。
しかも、これらはすべてシャクティーパット後二、三週間に起こり、それからしばらくすると、「パタッと止まってまた全然勝てない状態になってしまった」というから、彼のツキがエンパワーメントによって与えられた神秘エネルギーの力であることは疑う余地がない。

まあ、こんなものは彼が潜在的に持っていた能力が発現し、神秘エネルギーを現世的な欲望、願望成就の方向に使った結果にすぎないのだが、麻原尊師のエンパワーメントにはこんな不思議な力もあるのである。

ところで、シャクティーパットのたびに我が世の春を謳歌してきたチューラガヴァッチャ正師だが、

「必ず勝てるとわかっているギャンブルが面白いわけがない。シャクティーパットさえ受ければ勝つというのがわかってからはバカバカしくて、だんだんとギャンブルに対する興味も薄れていきました。」

と、次第にその熱も冷めていったという。さらに、それと平行して修行で強烈な歓喜や幸福状態を味わい、気がついたときには本格的な修行の道に入っていた。結果、一九八九年三月になんと在家でラージャ・ヨーガの成就を果たし、その後出家されて九二年一月、見事にクンダリニー・ヨーガの解脱を果たした。現在ではさらなるステージアップを目指して修行に励んでいる状態である。

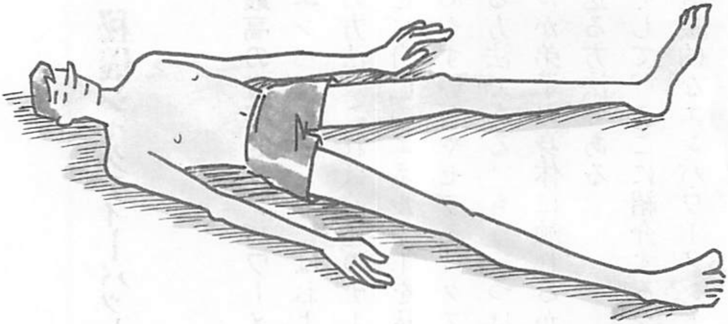
それはさておき、麻原尊師のエンパワーメントが巻き起こすこれらの〝奇跡〟をいちいち順を追って紹介していたら枚挙にいとまがないので、これ以上は第二部の「開かれた神秘世界の扉」（体験談集）の項に譲ることにしたい。霊的体験や神通力、願望成就などいくつかのパターンに分けて紹介してあるので、おそらくエンパワーメントの深遠な世界がよくご理解いただけることと思われる。そして、この第一部ではまず麻原尊師の代表的なエンパワーメントをいくつか挙げ、できる限り皆さんにわかるように取り上げていきたいと思う。ただ、秘儀に属する部分もあるので、すべてオープンにできないのが残念だが、これをきっかけに皆さんが少しでもこの不思議なエンパワーメントの世界に興味を持っていただけるなら幸いである。

II　秘儀シャクティーパットの真実

◉最高の直接的エンパワーメント

エンパワーメントにはおよそ二つのタイプがある。一つは間接的エネルギー移入の方法。これは前述のナーガールジュナの例のように、例えばグルが果物や水などに自己のエネルギーを込めてそれを弟子に与える方法、あるいは霊的な力を込めやすい石やセラミックスなどにエネルギーを込めてそれを弟子に身につけさせる方法である。もう一つは直接的なエネルギー移入の方法。これは文字どおりグルが弟子の身体に触れるか、直接触れないまでもごく近い距離からエネルギーを送る方法である。

そして、ここに紹介するシャクティーパットは、グルが直接弟子の身体に触れる直接的なエンパワーメントの中でも〝最高の部類に位置するもの〟といわれて



シャヴァアーサナのポーズ

いる。

まずは簡単にそのプロセスを紹介しよう。シャクティーパットを受ける者は、ヨーガでいうところの「シャヴァアーサナ」（「屍のポーズ」ともいう）のポーズをとる。これは上図のように全身の力を緩め、心身を完全にリラックスさせた状態である。そして、グル（この場合、もちろん麻原尊師）はその者の頭の上の位置に座し、その者のアージュニァー・チァクラに指を置き、ゆっくりとエネルギーを移入していくのである。

麻原尊師がこの伝説のイニシエーショ

ンを始めたのは今をさかのぼること七年ほど前のこと。以来、シャクティーパットを受けた人の数は、数千人にも上る。

◉すべてはクンダリニーの覚醒から始まる

まず、いろんなインドの教典、その日本語の翻訳、あるいはそのインドの教典を読んだという人が書いた内容を読みますと、「クンダリニーの覚醒は危険である」とか、あるいは「それはほとんど無理である」とか、あるいは、「三年以上の激しい修行をしてやっと覚醒するかしないかである」とか……。

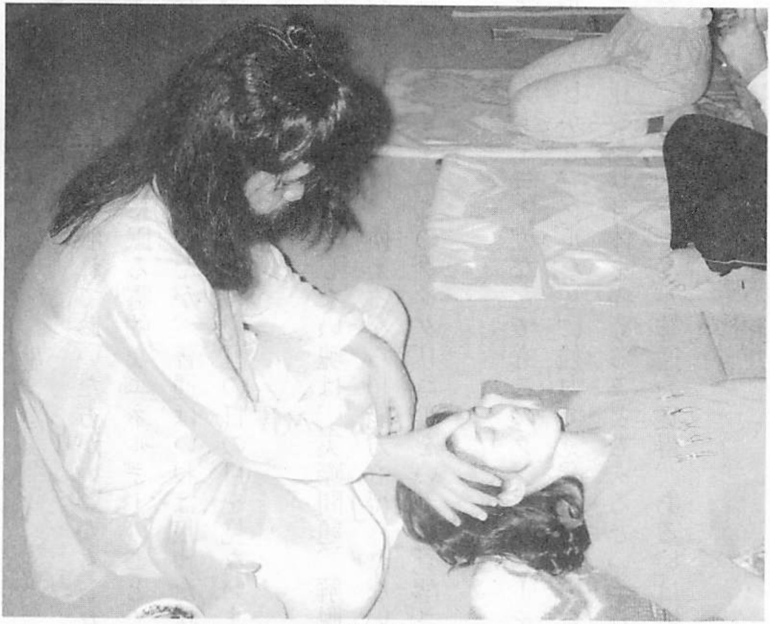
ところが、わたし自体、そのクンダリニーの経験というのは、初期の段階で経験してるわけですね。それは、タオイズムの修行とか、まあ、ヨーガの修行をやってるときに経験してるわけですけども、なんでこれがそんなに時間かかるんだろうか、と。で、こんなのに一生かけてたら、だれも解脱できないじゃ

ないか、と。

というのは、クンダリニーそのものは、確かに解脱に必要な条件ではあるけども、しかし解脱ではないと。で、まあ、よって弟子たちにエネルギーを入れようじゃないかということでいろいろ調べていきますと、シャクティーパットという技法があると。じゃあ、やってみよう、ということでやったら、いきなり弟子たちがクンダリニーを覚醒し出したということなんですね。

これは最近行なわれたある雑誌のインタビューの中で、麻原尊師がシャクティーパットを始めたきっかけについて語ったその一部を抜粋したものである。このシャクティーパットは始められた当初、「クンダリニーを安全かつ速やかに覚醒させる神秘的な技法」として、精神世界に興味のある人々の間で大いに話題になった。無論、それにはきちんとした理由がある。

ただ、その理由について述べる前におそらく皆さんには耳慣れない言葉だろう



クンダリニーを覚醒させるシャクティーパット

「クンダリニー」について簡単に触れておいた方がいいかもしれない。クンダリニーというのは人間の尾てい骨に眠る霊的なエネルギーのことである。これは本来、だれもが持ち合わせているものだが、普通はいわば眠った状態にある。そして、ほとんどの魂がこのクンダリニーの覚醒の日の目を見ないまま一生を終えてしまうのが常である。

しかし、このクンダリニーが覚醒しない魂は、実際問題、解脱はおろか、神通力、イメージしやすい言葉に置き換えるなら超能力も得られないわけである。つまり、修行の第一歩は、まず「このクンダリニーをいかに覚醒させるか」から始まるのである。

ところが、例えばインド・ヨーガなどでもこのクンダリニーを覚醒させることは大変時間がかかり、しかも、グルなしに独力で覚醒させた場合、その強烈なエネルギーによって気が狂ったり身体を痛めることもあるといわれているほど実は危険なものなのである。そして、それが神通力獲得、あるいは解脱を難しくして

いるゆえんでもある。

もっとも、それは裏を返せば、このクンダリニー覚醒はステージの高いグルのエネルギーを借りさえすればそんなに難しいものではなく（ただ、今現在クンダリニーを覚醒させることができるレベルにあるグルなど世界中見渡しても数えるほどしかいないだろうが……）、しかも、高いステージと経験に富んだグルに師事すればクンダリニー覚醒時の種々の危険性も容易に回避できることはいうまでもない。この二つを兼ね備えた麻原尊師のシャクティーパットがスタート直後から話題を集めたのも実は当然のことなのである。

◉クンダリニーの覚醒

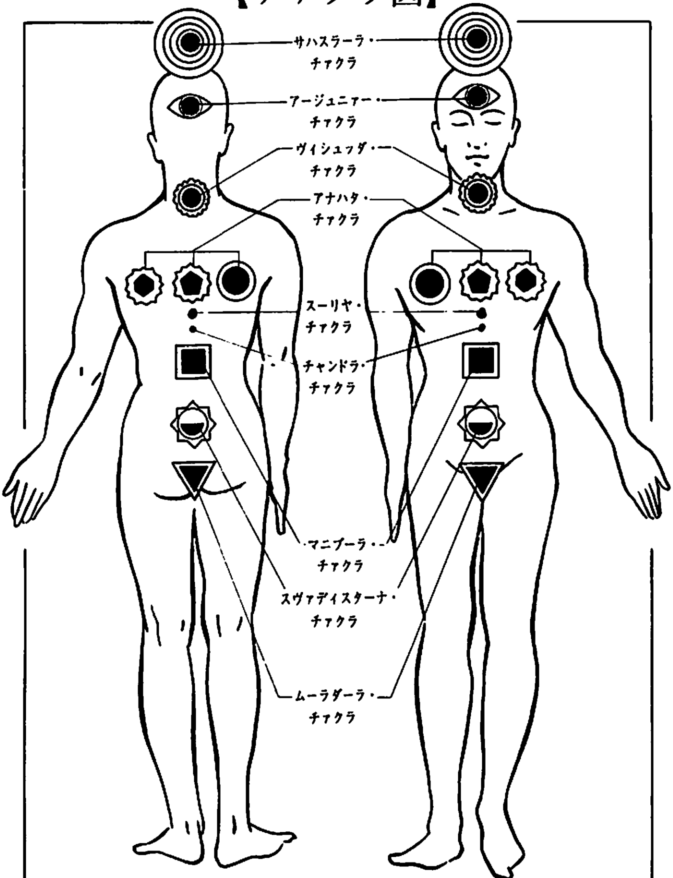
では、実際問題、シャクティーパットによってどのような形でクンダリニーは覚醒するのだろうか？　神奈川県在住のある男性から寄せられた体験談をここに紹介するのでイメージをつかんでいただきたい。

尊師からシャクティーパットを受けていると、虹色の光が二本見えた。一本は、左下から右上へ、そしてもう一本は右下から左上へといずれも斜めに走ったように見えた。そして、「クンダリニーが昇ったよ」という尊師の声が聞こえたとき、その光はらせん状に変わっていた。

シャクティーパットが終わったとき、身体が動かなくて起き上がれなかった。意識ははっきりしているが身体がなくなってしまったような感じで、手足の感覚は全くなかった。

その後、小周天（しょうしゅうてん）という、エネルギーを転回させる技法を行なったところ、背骨が熱くなり、アナハタ・チァクラ（※胸部にある霊的センター。人間には同様のものが七つある）から後頭部へものすごい量のエネルギーが昇っていった。その夜は寝ているときでも背骨が温かかった……。

【チァクラ図】



―チァクラ―

チァクラとは、人間の身体にある霊的なセンターで、主なものは七種である。しかし、普通の人はそれが眠った状態で働いていない。霊的エネルギー、クンダリニーが覚醒すると、そのエネルギーをもってチァクラが開いていくのである。また、チァクラは、身体の下部に位置するものに比べ、上部へいくほど次元が高くなっていく。

彼の体験はまさにクンダリニー覚醒の典型的なケースである。多くの場合、クンダリニー覚醒時にはこのようにちょっとした発熱を伴う。それは場合によっては四二、三度といったものすごい高熱が出ることもある。が、もちろん、風邪の症状とは明らかに異なるのはいうまでもない。意識は鮮明ではっきりしている、それがクンダリニー覚醒の特徴である。

まあ、皆さんの中には、「四二、三度の熱などちょっと信じられない！」と思われる方もいるかもしれないが、クンダリニーというのはそれだけ不思議かつ強烈なエネルギーなのである。そして、それが何度もいうように、一人で覚醒させてしまった場合、〝危険〟が伴う理由でもある。

一歩間違えば、完全に身体を痛め、あるいはそのエネルギーの強烈さのあまり身を滅ぼしてしまうのである。しかし、これまた何度も繰り返しているように、すべてを知り尽くしたグルが存在していれば、その強烈なエネルギーを自在にコントロールしながら速やかに次の修行ステージに導く力となってくれるのである。

なお、エンパワーメントを行なう側、つまり麻原尊師の方は相手のクンダリニーを覚醒させるときいったいどのような体験をしているのか皆さんには興味のあるところだろう。これについては弊社刊の前出『超能力秘密の開発法』にその様子が詳しく書かれているので、参考までにその部分の抜粋も以下に紹介することにしよう。

　相手のクンダリニーが覚醒していく様子は、霊眼で見ている。まず、相手の眉間に当てたわたしの親指から白銀色の光がスシュムナー管（クンダリニーの通り道）を通って尾てい骨のムーラダーラ・チァクラまで降りていく。これを三回ほど繰り返すと、光はパッと消えてしまう。これは、スシュムナーにクンダリニーの通り道ができたことを意味する。

　さらにシャクティーパットを続けていると、小さな豆粒ほどの赤い点が相手のムーラダーラ・チァクラに四点くらい見え始める。このとき、わたしのムー

ラダーラ・チャクラも呼応してむずがゆくなる。それらの点は初めは離れて見えるのだが、やがて一カ所に集まり、逆三角形をつくる。そのとき、わたしのムーラダーラ・チャクラは熱くなる。三角形は次第に大きくなり、骨盤ほどの大きさにまでなる。わたしのムーラダーラ・チャクラはいっそう熱くなり、エネルギーが上へと昇り始める。同時に相手の赤いクンダリニーも上へと昇り始めて、それがわたしの親指のところにまで到達すると、相手の身体全体が赤く見えるようになる。これで第一回のシャクティーパットは終了である。たいていこれでクンダリニーの覚醒も終了する。シャクティーパットを受けた人は以後超能力をどんどん獲得していくことができるのである。

◉「クンダリニー覚醒」から「解脱」へ

さて、このようにクンダリニーの覚醒に主眼が置かれて始められたシャクティーパットは、以来、数千人のクンダリニーを覚醒させることになり、強力なエンパ

ワーメントとして精神世界ファンの間で話題になったのは先に述べたとおりである。ところが、この方法はある時期を境にその意味合いを若干変えることになる。もちろん、だからといって「クンダリニーが覚醒しなくなった」というわけではなく、その後も多くの人々がクンダリニー覚醒を得たものの、エネルギーを移入される側の麻原尊師が、クンダリニー覚醒に重点を置かれるのをやめられたためその効果もややニュアンスを変えることとなった。簡単にいうなら、クンダリニー覚醒以上に〝解脱〟に重きを置く方向に変わっていったということである。

では、具体的にはどこがどのように変わったというのか？　前出・オウム真理教教団機関誌『マハーヤーナ』第十五号（一九八八年十一月十日発行）で麻原尊師自身が詳しく述べられているので、次に紹介しよう。

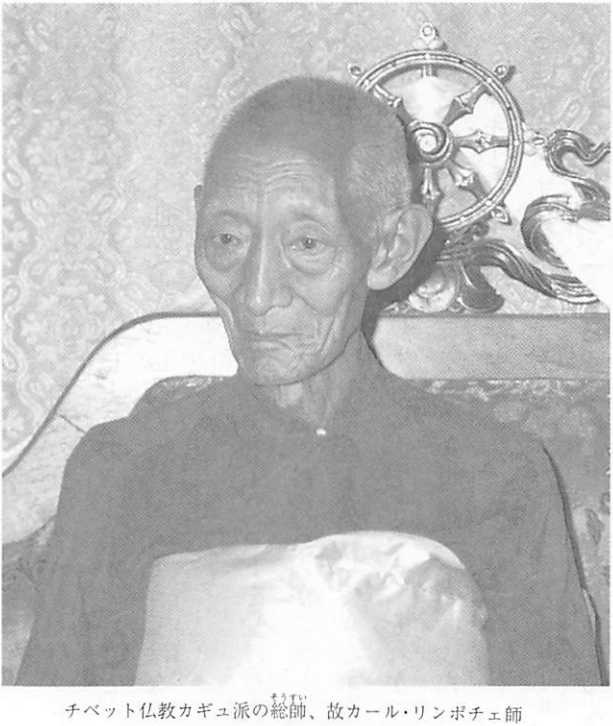
尊師　例えば、今回カール・リンポチェ師（※故チベット仏教カギュ派の総帥（そうすい））で、前生において麻原尊師のグルであった生を持つ）が来日なさったよね。しかし、

カール・リンポチェ師のイニシエーションというのはダイレクトではないんだね。

それから、エンライトしてたという、スワミ・ムクタナンダという人がいるんだよ。ニューヨークで活躍して、八三年に亡くなったんだけどね。彼の場合は、二千人くらいまとめといて、パッパッパッパッパッと触っていく祝福（頭頂に手を触れてエネルギーを入れるイニシエーション。シャクティーパットより、所要時間もエネルギーの量も少ない）をやった。彼はこれをシャクティーパットと呼んでいるわけだ。オウムでいうシャクティーパットも、ちょっとはしているだろうけどね。

だから、オウムのシャクティーパットというのは、単なる霊的な世界への参入の儀式ではなくて、古典的な、相手を完全に成就させるためのエンパワーメント、エネルギー移入ということになるよね。

『マハーヤーナ』編集部　では、その一人に投入されるエネルギーも全然違



チベット仏教カギュ派の総帥(そうすい)、故カール・リンポチェ師

うということですね。

尊師　それは全然違う。それから、わたしのシャクティーパットは、ある時期にタイプが変わったんだよね。それはどういうことかというと、以前はクンダリニーを上げることに主眼を置いていたんだけど、そうではなくて、高い世界と結びつけることに主眼を置くことに変えたんだよ。

それはなぜかというとね、以前にシャクティーパットを受けた人で魔境に入る人が多かったんだよ、エゴが強くなって魔境に入る人が。クンダリニーというのは生命エネルギーだから、わたしが十年近く修行してきたエネルギーを移入されると、当然元気にもなるし、精力もついてくるし、それから意志も強くなるから、エゴは喜ぶよね。しかし、それを現世に使っちゃったら、もともとまだ借り物のエネルギーだから、当然魔境に入っていくよね。

だから、ある時期からオウムのシャクティーパットは、イコール、コーザル・イニシエーションということができるくらいのことをやっているんだよ。

それは何かというと、わたしたちの偉大なる、絶対なる主宰神であられるシヴァ神と、それと同等の力のおありになる、マハー・ニルヴァーナに住んでいらっしゃる魂というのかな、その方たちとつなぐと。あるいはマハー・ムドラー系統とか、ゾクチェン系統とか、あるいはアストラルのマニクラチュー系統とか、釈迦牟尼(しゃかむに)系統とか、あるいはインドの極上ヨーガのね、例えばパタンジャリ系統とかとつなぐためのシャクティーパットに変わったわけだね。

だから、最近のシャクティーパットは十分間と規定されていたわけだけども、その十分間、すべて観想してるんだよ。単にエネルギーを入れているだけではなくて、相手を霊視しているだけではなくて、観想して、そして、相手に正しい真実のデータを放り込んであげると。で、その人が未来際において絶対に真理から離れないようにということで、わたしの知っている限りの真理と結びつけたと。だから、後半のシャクティーパットを受けている人たちは魔境には入らなかったんだよね。

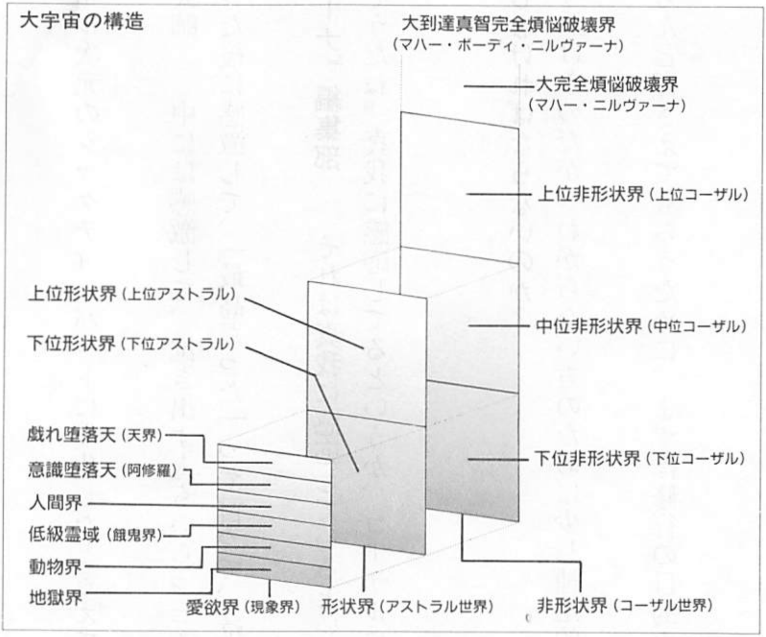
『マハーヤーナ』編集部　では、当然受ける側としても、かなり感じは変わってくるということですか。

尊師　そうだね。当然受ける側としても、感じ方は変わってきたね。以前は、熱あるいはエネルギーの上昇を中心に感じていた人が多かったけれど、最近では、至福感を感じたという人が多かったね。それから、もう一つは光、あとエクスタシーみたいなものだね。

ミラレパ大師（※クンダリニー・ヨーガの成就者。その後マハー・ムドラーを成就し、現在は正悟師、供養値魂と呼ばれている）　視界が明るくなったという人がいましたね。色が見えるとか、そういうのではなくて、目の前が明るくなったという人はいましたね。

『マハーヤーナ』編集部　昔は色が見える人が多かったようですね。

尊師　その色というのは、アストラルだからね。そして、視界が明るくなるというのはコーザルだから。つまり、アストラル次元のシャクティーパットか



戯れ堕落天はさらに六つに分かれており、上位形状界には、神聖衆天から超越童子天までの17の世界がある。また、上位非形状界には、空間無辺境、識別無辺境、無所有境、非認知非非認知境の４つの世界がある（詳しくは『タターガタ・アビダンマ　第一誦品』参照）。

ら、コーザル次元のシャクティーパットに変化したと考えていいんじゃないかな。

ミラレパ大師　中には感激して、泣き出す人もいらっしゃいます。男の方でも、終わった後に感激して、「最高だった」って言って、泣き出した人もいました。

『マハーヤーナ』編集部　それは真我に感応しているということなんですか。

尊師　そうだね。真我に感応してるというか、コーザルに感応してるというかね。

◉なぜ修行しなければならないのか？

――というわけなのだが、わからない方のために少し補足的な説明をしなければなるまい。

原則をきちんと押さえてもらうために、まずは修行の目的から話そう。我々は

もともと、このような肉体を持った不自由な存在ではなく、真我と呼ばれる不滅・不変であり、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜という属性を持った光輝く存在であった。あったというのは正しくなく、今でも我々の本質はまさにこの真我なのである。

しかし、残念ながら今では我々はそれを自覚することができない。なぜなら、無始の過去において、独存位にあった真我は三グナと呼ばれるエネルギーに干渉され、そのダイナミックな動き、美しさ、光に感応してしまい、迷妄の世界に巻き込まれてしまったのである。そして、非形状界（コーザル世界）、形状界（アストラル世界）、愛欲界（現象界）という三つの世界が形成され、真我は、煩悩を具足していき、三つの世界をどんどんと落下していったのである。そして、我々は最も苦しみの多い愛欲界の、この人間界にまで落ちてしまったわけである。

ここで疑問に思われる方もいるかもしれない。そして、このように反論される方もいるかもしれない。

「人間界がどうして苦しみの世界なんだ。」

「わたしは今の生活で、十分満足だし、楽しいと思ってますよ。」

しかし、その昔、サキャ神賢（釈迦牟尼）が説いた真理の教えにのっとってもう一度この人間界を見てみたとき、果たして同じことがいえるのか大変疑問である。「三苦」といわれるようにしょせんこの世のすべては、「病や痛みなど、それそのものが苦しみである苦しみ」「今まで得ていたものが崩れ去る苦しみ」「求めているものが手に入らない苦しみ」という三つの苦しみによって構成されているのである。純粋な智慧の目で見るならば、このカテゴリーに入らないものは存在しないのがわかるはずである。例えば、どんなに素晴らしい人生を送ったとしても、わたしたちは必ず老い、死ななければならないのだ。そして、来世は地獄に転生しなければならないかもしれないのである。

修行の最終的な目標とは、煩悩を破壊して、〝マハー・ボーディ・ニルヴァーナ〟に到達することである。ここに存在する魂は、非形状界・形状界・愛欲界と



修行以外に真に幸福になる道はない。

いう三界に存在することも自由、存在しないことも自由、つまり真我独存になり、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜の境地に浸ることも自在にできるのである。そこでは、三グナに干渉されるということはない。三グナを完全にコントロールできるのだ。

麻原尊師が、後半行なわれたシャクティーパットというのは、修行の最終地点まで導いてくれるグルの中のグル、シヴァ大神と、マハー・ボーディ・ニルヴァーナ（※インタビュー中のマハー・ニルヴァーナと同義）の真理勝者方、そして過去の偉大なる成就者方と、エネルギーの受け手をつなぐ秘儀だったのである。つまり、単にクンダリニーを覚醒させるだけではなく、未来においてその人が決して真理の修行の道から外れないよう、そして、いつかは完全なる解脱を果たすことができるように、神々のデータをもシャクティーパットの受け手側に入れているのである。

今生真理に巡り合い、修行できるからといって、来世もそうだとは限らない。

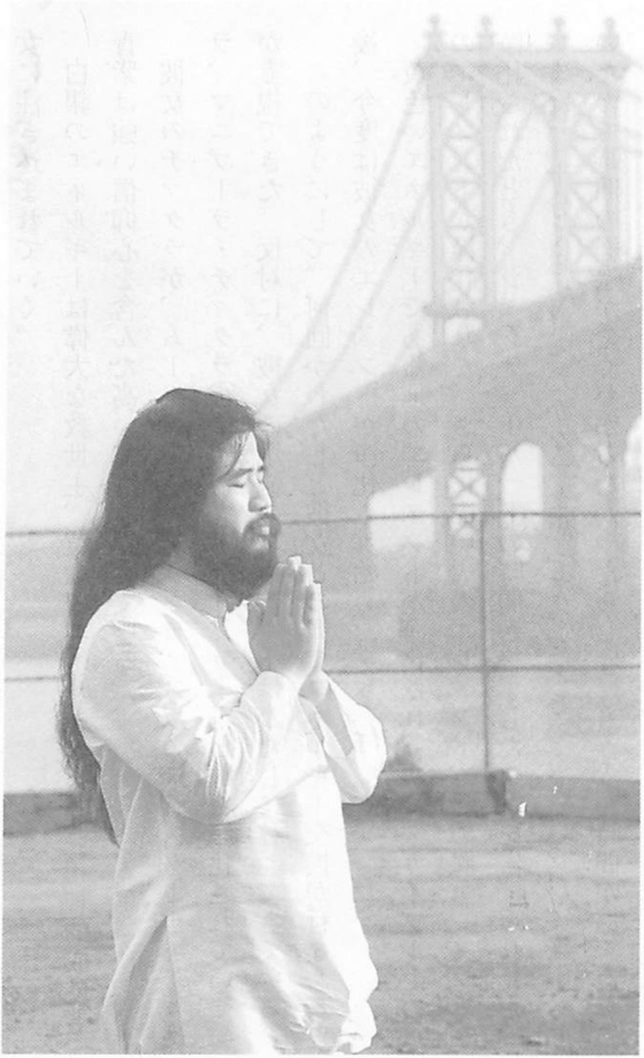
仏典に記されているとおり、真理に巡り合い修行できる確立というのは、まさに砂漠の中の一粒の砂を拾い出す確立に等しいからである。とすれば、このシャクティーパットがいかに素晴らしい恩恵を受け手に与えるものなのかが自ずとわかるだろう。

◉ニューヨークで証明された奇跡

グルグルグルグル——わたしの手が力強く回る。ニューヨーク支部で初めてのシャクティーパット。ここで超常体験をさせられなかったら、わたしの世界救済は失敗に終わってしまうだろう。

わたしがシャクティーパットを施している相手は、入信間もない、修行経験の全くない女性セーラ。日本でもS社のCMなどに出演している、有名な美人モデルである。わたしとセーラの周囲では、スタッフを含め五十五名もの人々

が、息を詰めてじっと見守っている。
ニューヨークでの具体的な布教活動の第一歩ともいえるこのシャクティーパットには、三十分という長い時間が取られた。これは、通常日本で行なわれているシャクティーパットの三倍の時間に当たる。失敗は許されない。わたしは全神経を集中させた。
わたしは、シャクティーパットを自分一人の力でやってるわけではない。わたしの指を通じて、遠い過去からの多くの成就者のデータを、相手に移入させていただいているのである。グル・シヴァ神、ティローパ、ナローパ、マルパ、ミラレパ、パドマサンバヴァ、釈迦牟尼如来、パタンジャリ、スワミ・ヨーゲシヴァラナンダ……、多くの成就者たちがわたしのシャクティーパットを助けてくれているわけである。
わたしはこの成就者たちのデータを、セーラに入れ続けた。それとともに、わたしの身体が発している白銀・黄金・青紫の光のエネルギーも、どんどん彼



1988年ニューヨークにて。

女に注ぎ込まれていく。
白銀のエネルギーは偉大な救世主、黄金のエネルギーは高い精神的成就者、青紫は強い信仰心を含んだ高い霊性を示している。
彼女のチャクラが、ムーラダーラ・チャクラ、スヴァディスターナ・チャクラ、マニプーラ・チャクラ、アナハタ・チャクラ……と順次浄化されていくのが霊視できた。反対に、彼女の煩悩のエネルギーはわたしに移ってきている。
このようにして、何回かわたしと彼女との間でエネルギー交換が行なわれた後、今度は彼女のエレメントが浄化され始めた。
黄色いエネルギーである地のエレメントが浄化され、次にスカイブルーの水のエレメントが浄化された。さらに赤い火のエレメント、緑の風（ふう）エレメントが浄化されたとき、シャクティーパットの時間が終了したことを告げられた。
まだ、「十分くらい経ったかな」と思っていたときのことだった。集中していたので時間の経過が全くわからなかったらしい。もう少し時間があったなら、

最後の空エレメントの浄化もできたかもしれなかった。これができたら、彼女は三昧（サマディ）に入れたのだ。

シャクティーパットは成功した。

これは、一九八八年六月、ニューヨークで麻原尊師がシャクティーパットのデモンストレーションを行なったときの様子である。もちろん、ここでこの話を突然持ってきたのはそれなりの理由がある。現代人はなかなか疑い深く、実際の体験談をいくつか挙げて論理的に説明しても、「シャクティーパットなんて暗示じゃないのか？　それとも催眠術か？」などと疑って考える方も多いからである。この疑問に答えるために、このニューヨークでのシャクティーパットのケースを含めて、いわば言葉の通じない外国人相手に施された二つの実例を提示することにしたいと思う。

さて、光栄にも麻原尊師からこの奇跡のエンパワーメントを受けることができ

たセーラは、このときいったいどのような体験をしたのだろうか？　以下が我々にとっても大変興味深い彼女の感想である。

今日、麻原尊師にシャクティーパットをしていただきました。その体験を皆さんにお話ししたいと思います。

わたしは入信してまだ日が浅く、クラスに数回出席しただけでした。だから、シャクティーパットの体験者に選ばれたのは幸運でした。

シャクティーパットを受けている間、わたしには、多くの影の中に紫のエネルギーが飛び回り、ときどきそれと白銀が交ざるのが見えました。

今思い出したのですが、紫の前には美しい緑色が見えていました。そのエネルギーはとても気持ちの良いものでした。

その後、わたしはいくつかのドアのヴィジョンを見ました。そして、昔の人工的に着色したカラー写真のように見えるドアを通り抜けました。ドアを通り



固唾を飲んで見守るアメリカ人の前で、神秘のイニシエーションは行なわれた。

抜けると、そこは濃い金色の世界で、多くの影がありました。そして、わたしの中の何かが出てきて流れていきました。

終わりの方になると、胸とおなかの上部に大変気持ちの良い重みを感じました。そして、わたしは起き上がるように言われました（本当はあまり起き上がりたくなく、そのままでいたかったのですが）。

強いエネルギーと胸から解き放たれた何かが、上昇するのではなく外に向かって出ていくようでした。安らぎも感じました。しかし、それにも増して、わたしは強いエネルギーを感じ、自分自身がとても堅固になっているような気がしました。

彼女の体験は、これまでシャクティーパットを受けた日本人たちと何ら変わるものではなかった。ここで重要なのは、彼女がアメリカ人であるということ。つまり、エンパワーメントする側の麻原尊師にとって、彼女は言葉も習慣も違う相

手だということだが、その彼女をしてシャクティーパットが有効だったという結果が得られたということは、とりもなおさず、シャクティーパットが暗示でも催眠術でもないということの証明でもあるわけだ。

もう一人、このときセーラと共にシャクティーパットを受けたエリック・ジョンソンというアメリカ人男性も同じような素晴らしい体験をしているので、これも参考までに。

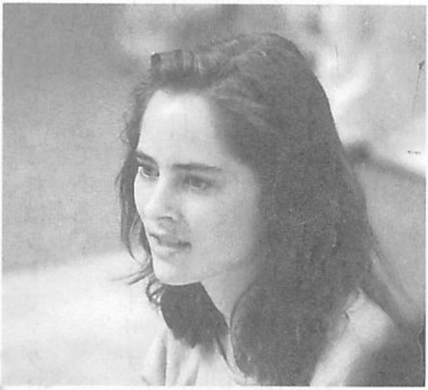
シャクティーパットを受けた直後、わたしは麻原尊師がこすられたアージュニァー・チァクラのところに、冷たさと穴が開いたような感覚を覚えました。同時に、胸の辺りに強く上昇するような感覚がありました。

シャクティーパットの後、妻がレストランでわたしを待っていました。わたしは道場を離れたいという気が全然なかったのですが、妻の望みに応じることにしました。

レストランへと向かって歩いている間、自分が肉体からも周囲の世界からも分離しているかのように感じました。この感覚は、わたしがお気に入りのレストランに着き、妻の友人たちに会ったときいっそう強くなりました。すぐに、中の二人の男性がわたしにあいさつしようと手を差し出してきました。

なるべくそっと、その手を握ろうとしましたが、それでも気が進みません。わたしは自分がここにいられないんだということを悟り、オウムの道場に帰って食事を取りました。そして、しばらく経ってから、妻に再び会ったのでした。

大成功を修めたニューヨークでのシャクティーパット・デモンストレーション。この公開シャクティーパットは、その一部始終を見ていたニューヨーカーたちに大きな感銘と衝撃を与えたことはいうまでもない。





セーラ、エリックに施されたシャクティーパットは、このエンパワーメントが暗示でも催眠術でもないことを証明した。

◉インドで証明された奇跡

シャクティーパットが暗示ではないことを示す二つ目の例。それは、このニューヨークの話よりもさかのぼること二年前のインドでの話である。

多くの修行者が存在する聖なる国インド。麻原尊師は過去この国を何度も訪れ、自らの修行体験を確認するために聖者と呼ばれる人々に会ったり、修行のためにホーリーなヴァイブレーションを発する聖地を訪れたり、というようなことを繰り返してきた。そして、これはラーマ・クリシュナ寺院にスワミ・ビハール・マハラジを訪ねたときの話である。

スワミ・ビハール・マハラジはアーサナと瞑想を七年間続けて解脱を得た聖者といわれており、遠い日本から訪ねてくれた訪問者を心から歓迎し、このときは麻原尊師に特別な瞑想法を伝授してくれたという。そして、この訪問の際に麻原尊師はスワミからたまたまこのラーマ・クリシュナ寺院を訪れていたドイツ人の青年を紹介され、彼にシャクティーパットを施したわけである。



1986年インドにて。ドイツの青年も奇跡を見た。

ちなみに、このときは「シャクティーパットは一種の暗示では？」の疑念を晴らすべく、ある種、実験のつもりでこのドイツ人青年に何も告げずに施してみたという。

果たして、その結果は？

「虹色の光が見えました。ものすごく心地良くなって、しびれて身体が動かなくなってしまった。エネルギーが尾てい骨から頭頂に向かって強く昇っていくのがわかりました。」

彼の言葉もまた、これまでシャクティーパットで受け手側が語っている体験そのままのものだった。ニューヨークでの奇跡の証明の二年前、すでにシャクティーパットが暗示ではないことが証明されていたわけである。

ところで、この一部始終（いちぶしじゅう）を遠目に見ていたスワミ・ビハール・マハラジは、こ



導師に花輪の祝福を与えたスワミ・ビハール・マハラジ。

の出来事にいたく感激。礼拝を終えて寺院を後にしようとする麻原尊師をわざわざ追いかけてきて、麻原尊師に対して花輪による祝福を与えた。言葉は通じなくてもヴァイブレーションで相手のステージを理解できるのである。

◉カルマを背負う過酷な修行

「わたしにとってのシャクティーパットは、ただ一つ人類を救済できる、最終の救済兵器だと思います。」

麻原尊師はかつて、こう語られたことがある。

あまりにも忙しい現代人が独力で修行ステージを上げるためには膨大な時間がかかるだろう。エンパワーメントなしではまさに道半ばにして挫折してしまう可能性だってある。さらに、情報化社会の弊害でどこもかしこも煩悩をあおるような情報しかない空間に仕立て上げられているとしたら、修行ステージを上げ、解脱へ到達するのがいかに難しいか、まして独力でそこまで到達することがいかに

難しいかがよくわかるだろう。それはもうほとんど不可能といってもいいかもしれない。なぜなら、煩悩的であればあるほど、カルマがけがれていればいるほど修行一つ行なうのも困難を伴うもので、そんな環境ではなかなかステージは上がらないからである。

グルのエネルギー移入によって自分のけがれたカルマを引き受けてもらい、代わりに解脱者の素晴らしいカルマを受けることで順調に修行ステージを上げていく。この下降傾向の強い現代、修行を進めていくことを考えたらまさにこの道しか存在しないのかもしれない。

ところで、ここで忘れてはならないことが一つある。それは、シャクティーパットなどのエンパワーメントでは、必ずエネルギーを施す側と受け手側にカルマの交換が起こるということである。魂が死後どの世界へ転生するかは、その人の良いカルマすなわち善業と、悪いカルマすなわち悪業によって決まる。カルマとは、前生、および今生になした身の行ない、口の行ない、心の働きの蓄積を指すので

ある。そして、このカルマのいい魂ほど高い幸福な世界へ転生をなし、カルマの悪い魂は地獄・動物・低級霊域（餓鬼）といった低い世界へ生まれ変わるのである。

つまり、エンパワーメントによって悪いカルマを引き受けてもらえば、当然、自分が本来できるはずのない高い世界の体験ができるわけである。そして、来世もより高い世界へ転生できるというわけなのだ。

しかし、エネルギーを施す側からすれば、どうなるだろうか？　当然、相手の悪いカルマを受けることになるのである。そうすると、例えば、地獄のカルマを引き受ければ、地獄の体験をするし、低級霊域のカルマを引き受ければ、低級霊域の体験をするというわけである。

「でも、なぜそんな自分に不利益なことをやるんだろう？」

中にはこう不思議に思う方もいらっしゃるだろう。その答えは次の尊師の言葉の中から、あなた自身が読み取っていただきたい。以下は先程挙げた『マハーヤー

ナ』第十五号のインタビューの続きである。

『マハーヤーナ』編集部　今回は、三、四回も、倒れられたそうですが（※尊師は、八八年の八月十日から八月三十日まで支部を回り、のべ六百人に対して集中的にシャクティーパットをされた）。

尊師　そうだね。まず、名古屋ですでにおかしかったんだよ。おかしかったんだけど、そのとき体温を測って、あまり熱がなかったから、強行して大阪の一日目を終わらせて、その後倒れたんだよね。

ミラレパ大師　名古屋のあたりから、どうも尊師は体調がお悪いということで、体温を毎回測っていらしたんですね。そうしたら、微熱がずっとあったんですよ。

尊師　七度前後の微熱だから、大したことはないということで進めたわけだけれども、倒れる前兆だったわけだね。でもね、倒れたからといって、休息の

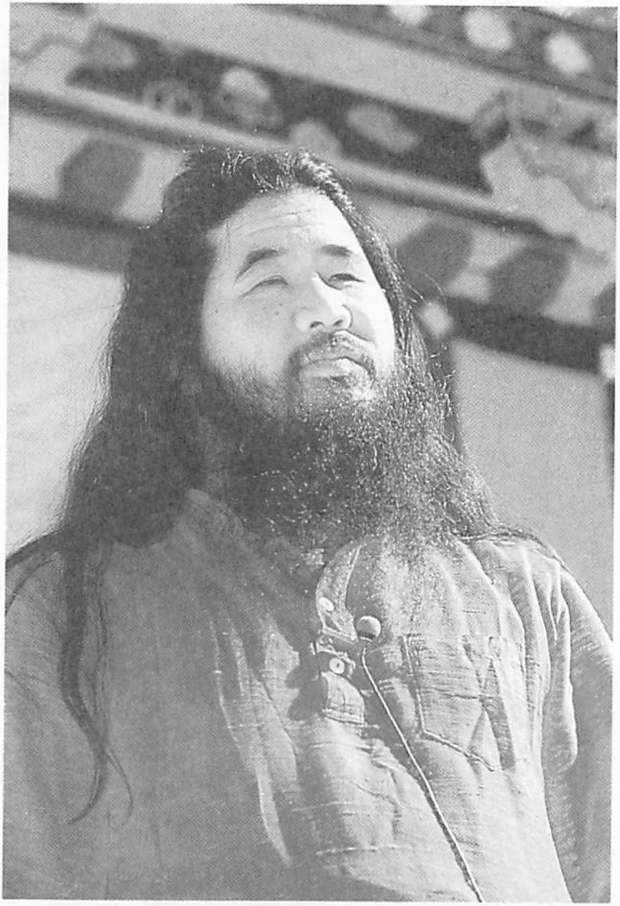
日というのは一日もなかったんだよ。どういうことかというと、倒れたらすぐその日に、富士の方にバックして、そして回復のために護摩法をかけたんだよね。それからスタッフ（直弟子、出家修行者）に説法をして。次の日も、その次の日もそうだったよね。

『マハーヤーナ』編集部　その護摩法によって回復なさるというのは、どういうことなんでしょう。

尊師　かなりわたしは他宗教の念力を受けていて、それは火によってかけられている部分もあるわけだから、そういう人たちのエネルギーをブロックする、というよりも、そこで動いている正しくない神々がいらっしゃるわけだけど、その正しくない神々を供養して帰してあげると。そうすることによって、その正しくない念も消えるということだね、一つは。

『マハーヤーナ』編集部　もう一つ、説法をするとおっしゃったのは……。

尊師　それは、どういうことかというと、今はもうわたしの肉体自体、自分



のためにないんだよね。だから、そこにスタッフがいれば、どうしても説法して、訓戒を垂れ、教育して、そして、とにかく高い世界へ引き上げて救済者にしていくというか、そういうことが自動的になされるんだよ、コンディションが悪くても。弟子たちのために、わたしはこの現象界に存在しなければならないという、一つの自覚というかね、そういう気持ちが、わたしの体をもたせる要因になっていたんだね。例えば、昨日も説法したわけだし、今日もしたけれども、本来だったならば寝ていればいいものを、寝ていられないんだね。寝ていたいという気持ちにならないんだよ。

ミラレパ大師　倒れられたときにも、いろんなスタッフから電話があって、それに対処されたり、ほんとに十分にお休みできる時間がなかったですね。

小宮（※このときの尊師のシャクティーパット・ツアーに付き添ったスタッフの一人）信徒の方が来られたときもあったんですよ。その場合もね、ちゃんとお会いになって三十分話されたんですよね。すごくその後おつらそうでしたねえ。でも、

絶対断られなかったですね。他に、病気の方が来られたときにもですね、シャクティーパットが終わった後に、わざわざ大阪の道場まで行ってお会いになったんですよねえ。

『マハーヤーナ』編集部　小宮さんは、ほとんど尊師についていらしたわけですが、そばでご覧になっていて、尊師のご様子はどうでしたか。

小宮　そうですね。限界までやられるんです、とにかく。わたしたちは途中でやめられた方がいいと思ってしまうんですね、尊師のお顔を拝見しているとすごく苦しそうですからね。人によっても違うんですけど、やっぱり、カルマの悪い方にシャクティーパットをなさると、かなりエネルギーをロスされるみたいですね。そういう方の場合は、ほんとにもう苦しそうなんですね。

『マハーヤーナ』編集部　端で見てて、わかりますか。

小宮　ええ、わかりますね。あと、尊師の声が段々小さくなります。どうし

て声が小さくなるかお聞きしたんですが、そしたら、「エネルギーをロスしているからだよ」っておっしゃったんですね。

そして、今回は、初めての方が多かったんですけど、初めての方というのは、尊師とのパイプがあまりできてませんよね。それで、特にエネルギーのロスが激しかったということですね。それが、やっぱり倒れられた第一の原因だと思いますね。

ミラレパ大師　尊師のお顔の表情を見ていると、まず、つらそうなときは顔をしかめられたり、目がちょっとうつろになったりしました。そして、だんだん前かがみになってきて……。それから、お顔が土色になって、はれてくるんです。尊師は、どちらかといえば、彫りが深いと思うんですが、それがだんだんなくなってくる、つまりはれてくるんですね。そして、血の気が引くような感じになって、それとともに唇が紫色というか、真っ青になるんですね。

小宮　シャクティーパットも最後の方になると、尊師は立ち上がることが全

然できなくなるんです。

尊師　それは、腰に力が入らなくなるから。それから、普通のシャクティーパットというのは、きちんと座ってやるんだけど、もう後半耐えられなくなったから、小宮君が気を使ってくれて、椅子を用意してくれたんだね、ひじ掛け椅子を。だから体を支えながら集中してたというかね。そういう状態だったね。

『マハーヤーナ』編集部　今回、そこまで集中して大勢の方にシャクティーパットをなさったというのは、何か意味がおありなんですか。

尊師　それは、約束は守らなければならないという前提があるからだね。何かというと、この後、まだ「特別イニシエーション」が残っているよね。それから、成就者を今年中に四十人は出さなければならないわけだよ。そうすると、そのエンパワーメントの時間を考えたら、シャクティーパットをどうしても八月いっぱいで終わらせておかないと、スケジュール的に無理ということで、そ

れをなしたわけだね。

これは、ケイマ大師（※現在は聖者マハー・ケイマ最上善逝）に言ってたことだよね。どんなことがあっても終わらせるよと。

ミラレパ大師　そのへんを理解しないで、倒れられる度にわたしたちは、「一日延期しましょうか」「一週間後にしませんか」とか言ってましたね。

小宮　でも、すべて拒絶されました。

『マハーヤーナ』編集部　しばらくお休みになって、また夜中に始められて朝方まで、という話もお聞きしましたが。

尊師　一番遅く終わったのは、朝の四時半じゃないか。

小宮　そうですね、そんなときもありましたね。

『マハーヤーナ』編集部　尊師ご自身は成就されているので、「苦」自体は感じられないと思うんですが、客観的に自分の状態をご覧になると、どのような

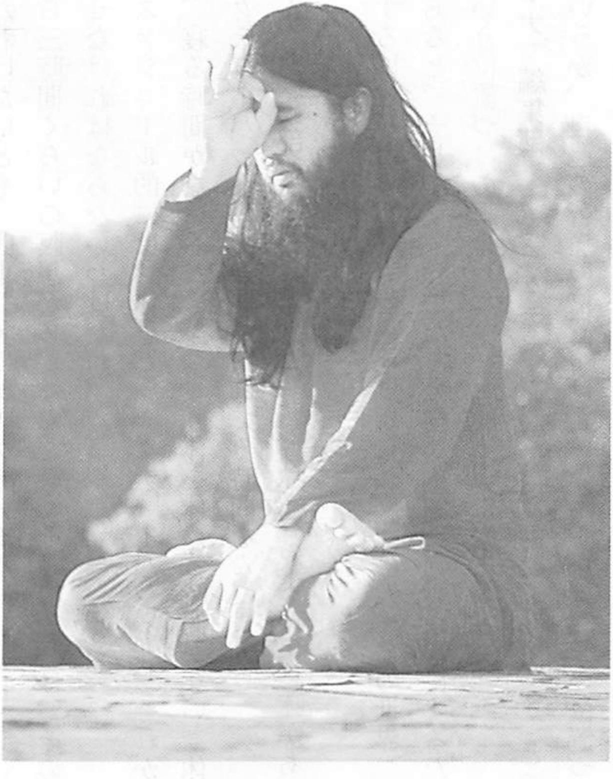
変化があったのでしょうか。

尊師　まず、今回は三回くらい死んだよね。死んだというのは、仮死状態になったということ。で、それは証明ができるんだよ。なぜできるかというと、もう、どうしても耐えられなくて椅子に座ったわけだけど、そのとき肉体を抜け出したんだよね。そして、高い世界に上がったんだけど、しばらくして死んだんだとわかったんだよ。でも、わたしは帰らなければならないと思って帰ろうとしたんだが、帰り道がわからない、疲れきっているから。で、「あっ、そうだ。シヴァ神を念じればいい」ということで、シヴァ神を念じて帰ったわけだけど、肉体にたどり着いたときは、とにかくほとんど呼吸をしてない状態だったね。あさーく、ながーく、という感じで。成就者が涅槃するときの前段階まで来てたということだね。つまり普通の人は死ぬ前には、呼吸が浅く、早くなるよね。ところが成就者の場合は、浅く、ゆっくりになるんだよ。

小宮　そうでしたね。

尊師　だから、今回は三回死んだな。そういう状態が三回はあったから。それからもう一つ、すべては心なんだなというのを感じたよね。どういうことかというと、高熱が出ても、とにかく自分は大乗の修行者だし、すべてをシヴァ神に捧げているんだという気持ちを持つとね、そうするとシャクティーパット前には一応熱は下がるんだよ。そうしてからやると、その日は大丈夫と。もちろん今になっても何も食べられない状態で、下痢が続いているくらいだから、それは正常な肉体状態じゃないけども、でも、常人の限界点は相当超えているんじゃないかなという気がしたね。

尊師　ところでね、シャクティーパットは一応一人十分間だけれど、実際は十分間では済まないんだよ。というのは、大乗の修行としてやらなければならないんだが、例えば六時間シャクティーパットをやったら、二時間以上の瞑想、これが必要なんだね。例えば今回は、最高一日で四十二名のシャクティーパッ



トを行なったわけだけども、四十二名にシャクティーパットをしたとしたら、二時間半から三時間くらいの瞑想が必要なんだよ。そしてそれは、その日のうちに終わらせなければならないわけだね。

だから、スケジュール的には、休息とシャクティーパットと、それから瞑想を入れたら、寝る時間がないんだよ。つまり体を休める時間がない。休める時間は、シャクティーパットの合い間の倒れてる時間なんだよ。

『マハーヤーナ』編集部　その瞑想というのは、どのような意味があるのですか。

尊師　要するに、その瞑想は六道（地獄から戯れ堕落天までの世界）を破壊するものであると。そして、生き物たちを絶対自由・絶対幸福にするためのものなんだという位置づけの瞑想だね。

『マハーヤーナ』編集部　シャクティーパットの位置づけということですか。

尊師　というか、自己の苦痛の位置づけと、エネルギー移入の位置づけだね。

『マハーヤーナ』編集部　それをやらないと……。

尊師　それはやらなければ、やらないでいいんだけれども、やはり、それをやることによって、一つは回復が起きるわけだね。回復が起きるというのは、どういうことかというと、絞り出すことができるんだよ、生命エネルギーを。なぜかというと、これは救済なんだと、自分は救済しなければならない立場にあると、だから、自分の生命エネルギーを注がなければならないんだという思いがあるから。

例えば、百名を超えたくらいからだったと思うけど、シャクティーパットをした人数が増えるよね、そうすると、そのけがれた振動をマニプーラとかスヴァディスターナとかに感じるんだよ。それは苦しいわけだね、一言でいうならば。そして、本当だったら、そこでできなくなるわけだよ。ところが、その大乗の修行をしていると、「わたしもそういうけがれた状態だったわけだけれども、それを偉大なる主宰神、シヴァ神によって救済していただいた。だから、

わたしがここで苦痛を感じること、それは、わたしが導いていただいた道なんだから、当然である」と考えるわけだね。

この苦痛というのは恐怖だからね。嫌悪というより恐怖なんだよ。触ることが恐怖なんだよ。

『マハーヤーナ』編集部　それだけ、激しいということですか。

尊師　そうだね、苦痛が激しいということだね。それからもう一つ、苦痛といっても、例えば、わたしは護摩法(ごまほう)のときに火が飛んできてやけどしようと平気なわけだけども、そういう苦痛じゃないんだよ。魂の本質にかかわるような苦痛なんだよ。それは煩悩の苦痛なんだ。例えば清らかなものがあって、その清らかなものがけがれたもの、自分が絶対に入ってはいけない世界のものに触れたときの苦痛というか、そういう苦痛なんだよ。

だから、自分以外の生き物と接する、振動しているものと接する、つまり、生き物はいろんなヴァイブレーションを出しているわけだけど、それらと接す

ることそのものが苦痛だったね、一言でいうなら。だから、それを超えるための修行なんだね。

それはそうだよね。例えば、わたしはパスポートを持っているわけだよ。絶対的な、自由で幸福なマハー・ニルヴァーナ、大涅槃といわれている状態に入れるわけだけど、しかし、それを否定しているわけだよね。それを止めているわけだよ。では、何で止めてるかというと、要するにそれは大乗の愛によって止めてるわけだよね。ここに苦痛がある、しかし、その苦痛よりもね、愛が勝つと。その修行をしていたわけだよね、ずっと。

だから、この三時間の瞑想を、もし一日でも取らなかったら、おそらく八月中にシャクティーパットは終わらなかっただろうと考えている。

これは不思議なんだけど、成就してから、人に触れると相手のカルマを受けて、自分の状態が変わっちゃうんだよ。ケイマ大師はシャクティーパットの経験があるからわかると思うけどもね。

『マハーヤーナ』編集部　成就すると、それだけ清らかというか……。

尊師　清らかになるね。浄化されるんだね。

『マハーヤーナ』編集部　最近になって、シャクティーパットのペースがどんどん上がってきましたが、それは、例えば肉体を回復させるのを速める何かのテクニックを得られたからですか。それとも、救済に時間がないからという理由からですか。

尊師　それは、愛が強くなったからだろうね、一言でいうならば。つまり、救済しなければならないんだという気持ちが強くなったんだね。わたしは、この数日間、自分は最後の救世主じゃないかと思っているんだよ。最後の救世主というのは何かというと、第三次世界大戦、ハルマゲドンが起きる前の最後の救済者じゃないかということだね。

『マハーヤーナ』編集部　今生がですか。

尊師　今生のわたしね。わたしは来世も転生するだろうけども。だから、とにかくエネルギーを放出できるだけ放出して、また逆に回復する技術を使ってできるだけ回復し、絞り出すだけ絞り出して、そして救済するしかないと。シャクティーパット終了の前後から、それが出てきたね。自分は最後の救世主じゃないかという意識がね。

わたしも、今まで宗教の本質みたいなものを渡り歩いたわけだよね。例えばインド・ヨーガとか、チベット仏教とか、いろんなものを渡り歩いたわけだけども、それを通じて、この世紀の最後の救世主なんじゃないかなと。で、その証明は、あと数年後になされるんじゃないかなと考えているんだよ。

◉ガンで逝った聖者

十九世紀のインドの聖者に、ラーマクリシュナ・パラマハンサという人物がいる。精神世界の教えに興味がある方なら、おそらく名前くらいは聞いたことがあ

るだろう。彼は若くから修行者としての卓越した素質を有し、四十年以上も厳しい修行を行なってサマディを得た聖者の秘儀を、なんとわずか一日で会得してしまうほどのステージにあった。また、六カ月にも及ぶサマディを成功させるという偉業も成し遂げている。

その彼は、こんな言葉を残して咽頭ガンで逝った。

「わたしは弟子たちに触れ、カルマを受けて死んでいく。」

実は、パラマハンサはシャクティーパットの実践者であったのである。そして、このガンとは、シャクティーパットを行ない、弟子たちのカルマを受けたことが原因だったのである。

シャクティーパットが、施し手と受け手のエネルギー交換であり、カルマの交換であることは前に述べたが、受け手側がクンダリニーの覚醒、様々な神通力の獲得、あるいは心の浄化や安定という素晴らしい体験をする一方で、施し手が被るダメージは極めて大きい。パラマハンサの例はそれを如実に示していたわけで



19世紀の偉大な聖者、ラーマクリシュナ・パラマハンサ。

ある。

シャクティーパット――それは、真の聖者のみが行なえる秘儀である。この伝説のエンパワーメントの奇跡を、いつかあなた自身が身をもって体験していただきたい。

（※なお、現在ではこのシャクティーパットはマハー・ムドラーを成就した高弟たちに引き継がれています。）

III　覚醒への第一歩、五大エレメントのエンパワーメント

◉五大エレメントを浄化・強化するエンパワーメント

　オウム真理教には忙しい現代人の修行を飛躍的に進めるために様々なエンパワーメントが存在する。秘儀に属するものもあるのでその詳細までは触れられないが、間接的なものとして挙げられるのが例えば「シークレット・イニシエーション」「ミラクル・ポンド」「音のイニシエーション」など。一方、麻原尊師が行なう直接的なエンパワーメントは、ときおり行なう相手の身体に触れる簡単な祝福は別にすると、本格的なエンパワーメントとしては「五大エレメントのエンパワーメント」「グルヨーガ・イニシエーション」が挙げられる。

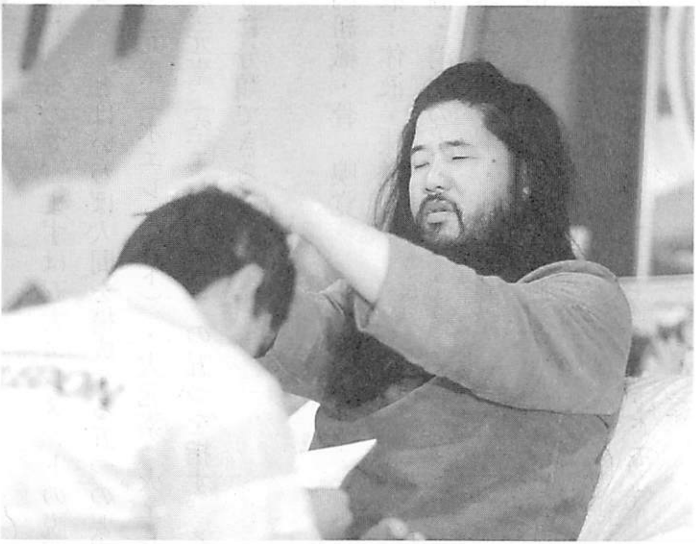
　このうちグルヨーガ・イニシエーションは現在、オウム真理教のイニシエーショ

ンの中では前出のシャクティーパット以上の最高峰の秘儀に当たるものなので、ご自身で試されることをお勧めすることにして、ここでは五大エレメントのエンパワーメントに絞って話を進めていくことにしよう。

この五大エレメントのエンパワーメントは、いわば修行の道に入った人がまず初めに受けることになるエンパワーメントである。このエンパワーメントは、直接的なエネルギー移入に加え、特殊な方法での間接的なエネルギー移入も加えられているのが特徴である。が、その内容は秘儀に当たるため残念ながらここで詳しくは述べることができないが、このイニシエーションが五大エレメントを一つずつ浄化し、さらに、強化するという恩恵があるということだけはここに明かしておこう。

◉五大エレメントってなに？

とはいえ、いきなり五大エレメントといわれてもおそらく大半の方は何のこと



五大エレメントのエンパワーメント

やらわからないと思われるので、まずは五大エレメントの説明から始めることにしよう。五大エレメントとはいわば人間を構成する五つの要素のことで、地元素(地エレメント)・水元素(水エレメント)・火元素(火エレメント)・風元素(風エレメント)・空元素(空エレメント)の五つを指す。そして、人間の構成はそれぞれ次のように分類できる。

・地元素……筋肉組織・骨・嗅覚
・水元素……血液・体液・味覚
・火元素……体温・消化の炎・視覚
・風元素……人体エネルギー・呼吸・触覚
・空元素……宇宙エネルギー・体腔・聴覚

まあ、唐突にこんな分け方をされてもピンとこないかもしれないが、実はこれ

五大エレメント

色	黄	白	赤	緑	青
元素	地	水	火	風	空
対応する体の構成要素	肉	血液	体温	エネルギー	空間（肺など）
対応するチャクラ	ムーラダーラ	スヴァディスターナ	マニプーラ	アナハタ	ヴィシュッダ
対応する感覚器官	嗅覚	味覚	視覚	触覚	聴覚

が仏教・ヨーガの根幹をなす教えなのである。各エレメントに該当する要素をよく見てもう一度考えてもらいたい。一見複雑に見える人間の構成も、地元素の固体成分、水元素の液体成分、火元素の熱成分、風元素のエネルギー、そして空元素の呼吸とこの五つに分類され尽くしてしまうことがわかるだろう。まさにこれ以外の何ものでもないのである。

そして、何の変哲もないように見えるこの分類方法こそ、いにしえの聖者たちが瞑想によって知り得た真の分類方法なのである。実際、修行が進んでくると、この五つのエレメントを色として霊視することもできるし、ヨーガの教典にもどのエレメントとどの色が対応するのかが記されているのである。

◉五大エレメントの浄化・強化の恩恵

それでは、この五大エレメントを浄化・強化することは、我々にどのような恩恵を与えてくれるのだろうか?

まず、初めにいえることは肉体が強化されるということである。そもそも病や身体の不調というのは肉体を構成するこの五つのエレメントのうちのどれかが弱まり、けがれることが原因で起きる症状なのである。つまり、この五つのエレメントを浄化・強化すれば不調は容易に治るわけである。

実際、オウム真理教にはこの五大エレメントを浄化・強化する五大エレメントのエンパワーメントをはじめ五大エレメントを浄化するイニシエーションがいくつかあるが、これらを受けた人々の中には、医者に見捨てられた病が治った例さえ数多く存在する。例えば、重症筋無力症という難病が、完治とはいえないまでも驚くべき回復をしたという例さえあるのである。

もちろん、五大エレメントのエンパワーメントによって、病が治った、軽減したという人も存在するのである。第二部で体験談をいくつか紹介してあるのでぜひご覧になっていただきたい。

◉修行者の機根を身につけるイニシエーション

ただ、五大エレメントのエンパワーメントにこのような効果があるのは確かだが、本来、そのようなことを目的にこのエンパワーメントがなされているわけではないことはいうまでもない。そして、オウム真理教に入信した人たちがまずこのイニシエーションからスタートすることを考えれば、このエンパワーメントがいわば修行者としての機根を植えつけるものであることが自ずとわかるはずである。

では、機根を植えつけるというのは、具体的にはどういうことなのか？ それはこう表現することができるだろう。まず一つめはグルと弟子のパイプづくりである。修行に入って間もない者にエンパワーメントをすることによって、グルと弟子とのパイプ——アストラル・ラインをより強固にするという意味合いがある。そしてもう一つは修行。すなわちこのエンパワーメントが受け手側の修行そのものなのである。修行の目的はいわばこの五大エレメントを浄化し尽くすことであ

り、五大エレメントを完全に浄化した段階で我々は「グヤサマジャ」と呼ばれるタントラヤーナ（真言秘密乗）の覚者（仏陀）になれるのである。このことについて、ここで詳しく述べられないのは残念だが、そのような深遠な意味合いがこのエンパワーメントにはあるのである。

もちろん、たった一回のエンパワーメントで大いなる覚醒を果たし、覚者になる例などほとんど皆無であることはいうまでもない。覚者への道はそれだけ困難極まりない大変な道のりなのである。が、このイニシエーションが、このエンパワーメントが我々に修行者としての機根を植えつけ、大いなる覚醒、解脱・悟りへ向かっての大きな布石となることだけは間違いない。

◉相手のことがなんでもわかる!

ところで、この五大エレメントのエンパワーメントについて、こんな興味深いエピソードがあるので参考までにここに紹介しておこう。コメンテーターは麻原

尊師の古くからの弟子の一人、アーナンダ師である。ちなみに師はクンダリニー・ヨーガの成就者で、化身成就師との称号でも親しまれている。

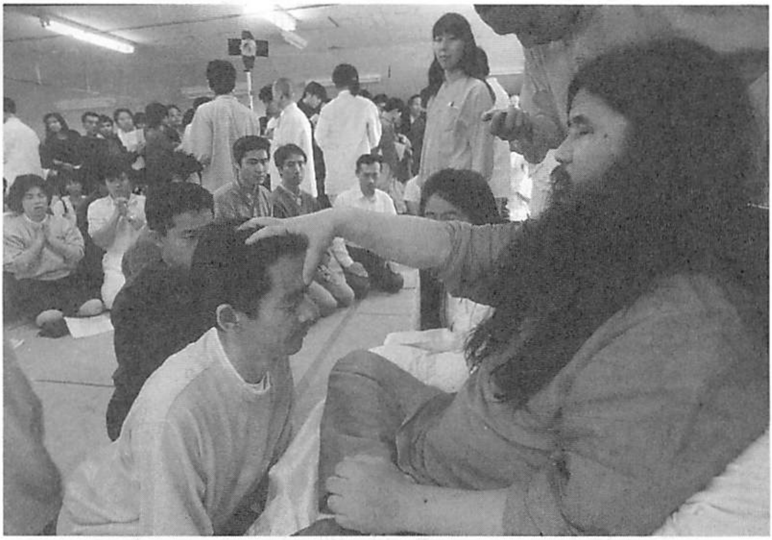
麻原尊師は最近、五大エレメントのイニシエーションで信徒さんに直接触られてエンパワーメントをされていますが、このことでびっくりしたことがあります。

イニシエーションが終わった後、尊師と一緒に話をしていると、たまたま数人のサマナ（出家修行者）の話になりました。

尊師は、

「Aは、ここからエネルギーが上昇している。こういったエネルギーが見える。だから、こういう部署に就かせた方がいい。」

と、事細かにそのサマナの状態を指摘されるのです。しかも、それが完璧（かんぺき）に当たっています。



麻原尊師はたった十秒のエンパワーメントで相手の状態を完璧に理解してしまう。

その場にいたサマナは、信徒さんと一緒にエンパワーメントを受けることができたのですが、そのサマナたちも同じくその日尊師のエネルギーを受けていました。つまり、尊師は、十数秒程度の短いエンパワーメントの時間に、彼らの状態を完璧に見通し、記憶していらっしゃったのです。

わたしは、ただ単にエネルギーを移入されて、疲れていらっしゃるのかなと思っていたので、驚いてしまいました。しかし、これは、別にそのサマナたちに限ったことではなく、そのときのイニシエーションを受けられた方は五百名以上いたのですが、そのすべての人の状態を把握し、覚えていらっしゃるということでした。

最終解脱を果たした麻原尊師は仏教でいうところの六神通（神足通・天耳通・他心通・宿命通・死生智・漏尽通）を完璧に身につけていて、直接触れることもせず、会っただけでその人の状態を見抜く力を持っている。そのぐらいの力の持

ち主なら、ましてエネルギー移入の際に相手に直接触れて、つまり相手と一体になった瞬間にすべてを見抜いてしまうのも当然といえば当然である。

たった十秒程度のエネルギー移入ですべてを把握する。オウム真理教では麻原尊師の直接的エンパワーメントでこんな奇跡を体験した者も実に多い。その中からもう一例だけ紹介しておこう。これは現在、マハー・ムドラーのステージにまで到達している聖者ウッパラヴァンナー供養値魂が初めてシャクティーパットを受けたときの体験である。

わたしが初めてシャクティーパットを受けたときのことです。わたしは、高校生のころから、ときどき、心臓が痛み出すことがありました。心電図を撮っても異常は見つからなかったのですが、あまりにも痛みが激しいときなどは、病院で精密検査を受けようかと思っていたほどでした。しかし、心臓が悪いとわかってしまうと、社会生活に支障が出てしまうと懸念したわたしは、両親に

も言えず、ずっと一人で悩んでいました。
しかし、シャクティーパットのとき、尊師は、わたしの額に親指を当てられた瞬間、こうおっしゃったのです。
「心臓が痛むことはないか?」
わたしは大変驚いてしまいました。だれにも話したことはなく、心電図に異常も見られなかったわたしの心臓の状態を、ただ指で触れられただけで、理解なさったからです。
そして、シャクティーパットが終わった後、尊師は、
「エネルギーの通る道をつくっておいたから、これからは痛むことはないと思います。」
とおっしゃいました。
そのお言葉どおり、わたしは、それ以後全く心臓の痛みを感じることはなくなりました。尊師が、わたしの自己保全の心の働きによるカルマを背負ってく



聖者ウッパラヴァンナー供養値魂

ださり、アナハタ・チァクラに詰まっていたカルマを取り除いてくださったのです。そして、わたしの長年の不安も解消されたのでした。

また、このように触れた瞬間にズバリと状態を見抜かれる以外に、エンパワーメントの最中やあるいは後に、心の奥底を見抜かれたり、歩んできた人生をすべて知っているかのようなアドバイスをもらった人もいる。そういうことは、実際、直接のエンパワーメントを受けた人のほとんどが経験していると考えてよいだろう。

相手の状態を完璧に見抜く――本人が自覚しているものも、自覚していない深い部分にあるものも――この神秘力がなければ、我々を高いステージに導いてくれるグルということはできまい。他のだれよりも、いや、自分自身よりも自分を知ってくれ、そして、最も自分にとって利益になる安全な、しかも早い修行法を伝授してくれる――だからこそ、修行者は、自分のすべてをグルに委ねることが

できるのだ。
そして、五大エレメントのエンパワーメントというわずか十秒間に奇跡を見せる麻原尊師こそ、まさにすべてを委ねられるグルであることがご理解いただけるだろう。

◉弟子の状態を完璧に把握──アンダーグラウンド・サマディの例

ところで、五大エレメントのエンパワーメントの話から少しはずれてしまうが、この弟子の状態を完璧に把握するということを示す大変興味深い例があるので、余談ながらここでご紹介したい。
これは一九九一年、麻原尊師の高弟たちによって連続でアンダーグラウンド・サマディが行なわれていたときのことである。
アンダーグラウンド・サマディというのは、「チェンバー」と呼ばれる地中に埋められた一辺わずか三メートルの立方体の小部屋の中で、五日間断水断食の状

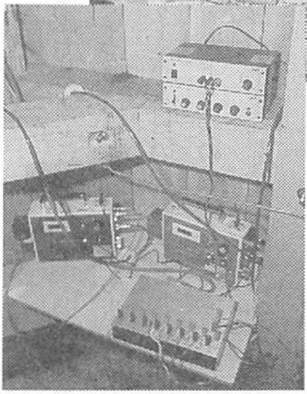
態で瞑想を行なう修行のことである。このとき外気はいっさい遮断される。仮に一般人がこの中で過ごすとしたら二日ぐらいで死に至らしめられることになるだろうが、一見過酷に思えるこの修行も、呼吸停止や心臓の微拍動あるいは完全停止をも伴う「サマディ」と呼ばれる瞑想の究極状態に入れる成就者にはさして難しいものではない。

このアンダーグラウンド・サマディは、聖者の奇跡として語り継がれてきたサマディの証明、さらに麻原尊師の高弟たちがこのサマディに入ることのできる修行者であることを証明するために行なわれたもので、一九九一年の十二月から九名の成就者が五日間の修行に挑戦したわけである。

結果、だれもがこの過酷な条件を難なくクリアしてステージの高さを証明したわけだが、その九名が口をそろえてこんなことを語っているのである。

「チェンバーの中でもちろん一人きりで五日間を過ごすわけですが、自分の修行状態に特別な変化が起きたとき、必ずピッタリのタイミングで麻原尊師からアド





チェンバーの一辺はわずか三メートル。この中で断水断食の状態で五日間過ごすなど、まさに成就者ならではの奇跡である。

バイスがあったんです。」

もちろん、チェンバー内の様子は外から確認することはできず、緊急時のためにわずかにインターフォンでの連絡が可能になっているくらいである。にもかかわらずなぜこのようなことが可能になるのか？　六人目の挑戦者としてこのアンダーグラウンド・サマディに挑戦したマハー・ムドラーの成就者、聖者キサーゴータミー供養値魂が挑戦した直後、麻原尊師自身が供養値魂との話の中でこのように語っている。

聖者キサーゴータミー供養値魂　（サマディの）中盤から後半にかけて、急に体調が悪くなった時期があるんです。というのは、今朝方まで、実は具合が悪かったわけですが、それは、わたくしの中に蓄積してきた、心のけがれの二つ、邪悪心と、卑屈さの修習によって、プラーナの流れが滞っていたんです。体調が悪くなったときに、そういう尊師からのご指示があったんですね。今ま

でも、肉体的に、同じような痛みを感じたことはあったのですが、それはほんの微々たるもので、今回ほど、ほんとに肉体的な苦痛を感じ、まあ、言ってみれば、ころげ回ったことはなかったのです。…（略）…

尊師　彼女も言ってたとおり、煩悩が捨断され、そして、本当の意味で肉体が弱ると、自分のカルマの状態が現象化します。例えば彼女の場合は、左側の詰まり、そして胸の詰まり、そして痛みといったような邪悪心、そしてもう一つは卑屈、この二つのカルマが現象化していた。

なぜそれがわかるんだというならば、それは、必ずアンダーグラウンド・サマディに入る前に、真理勝者、そして、諸々の各ヨーガの成就者たちのエンパワーメントを行ない、それによって、アンダーグラウンド・サマディに入ってる弟子と自分の体とを鏡のように映し出す、特別な観想を行なってるからである。

つまり、彼女たちの苦しみというのは――まあ、今までよく、「グルはタイ

ムリーにアドバイスをしてくれる」というけど、それはタイムリーにアドバイスするのではなく、彼女たちの苦しみ、彼らの苦しみというのは、その苦しみが必ずわたしの体に現象として現われるということだね。で、その状態で、アドバイスをすると。

◉道はここから開かれる

話をもとに戻そう。麻原尊師のもとで修行を行なうことを決意した人がまず初めに体験する奇跡――それがこの五大エレメントのエンパワーメントである。ここにはまさにクンダリニーの覚醒を含めた神秘体験のすべてが集約されていると思ってよい。

考えてみればこれは修行を行なう上で大変貴重なことなのである。修行というものに、あるいは神秘的な教えに興味を持つ者がその世界に入った場合、そのステージアップの段階で必ずといっていいほど一つの壁に当たる。それは「自分の

進んでいる道は果して正しいのだろうか？」という疑念かもしれないし、あるいは悪魔のささやきかもしれない。しかし、こういうときグルのエンパワーメントが生み出す種々の体験は、我々にこの道を進む〝確信〟を与えてくれる。

この五大エレメントのエンパワーメントこそ、まさに修行者としての道を開く第一歩なのである。ぜひ自分自身でグル麻原尊師の力を体験していただきたいものである。

その瞬間、あなたの魂に宿る不思議な力が目を覚ますだろう……。

第二部　開かれた神秘世界の扉

——奇跡のエンパワーメント体験談集



Ⅰ　神秘世界へいざなう奇跡のエンパワーメント

人の魂に宿る神秘力を発現させる麻原尊師のエンパワーメント。以下はその不思議なエネルギーが繰り広げる神秘世界の体験談の話である。

◉ろうそくに火を灯すように

大西徹さん（二十六歳）は修行に対して大変熱心に取り組んでいる方で、これまで多くのイニシエーションを受けられてきた。しかし、その多くは尊師が直接触れたりしない、あるいは尊師の高弟を通じた間接的なエンパワーメントが多く、直接触れられてのエンパワーメントは一九九一年十一月の「五大エレメントのエンパワーメント」が初めて。

とはいえ、幽体離脱やナーダ音を聞いたり光を霊視したり、常日ごろから豊富な神秘体験を経験している大西さん。その大西さんをして、「やっぱり尊師直接のエンパワーメントはすごいですね。エネルギーをいただいた直後の神秘体験も全然違いますからね」と言わしめているのだから、尊師が相手に直接触れられて行なうエンパワーメントの効果がいかにすごいか、推して知るべしだろう。

「初めて五大エレメントのエンパワーメントを受けたとき、その瞬間は正直いって何も変化がなかったんですよ。緊張しているうちにアッという間に終わっていたというか、ボーっとしてしまって特別感じるものなど何もありませんでした。

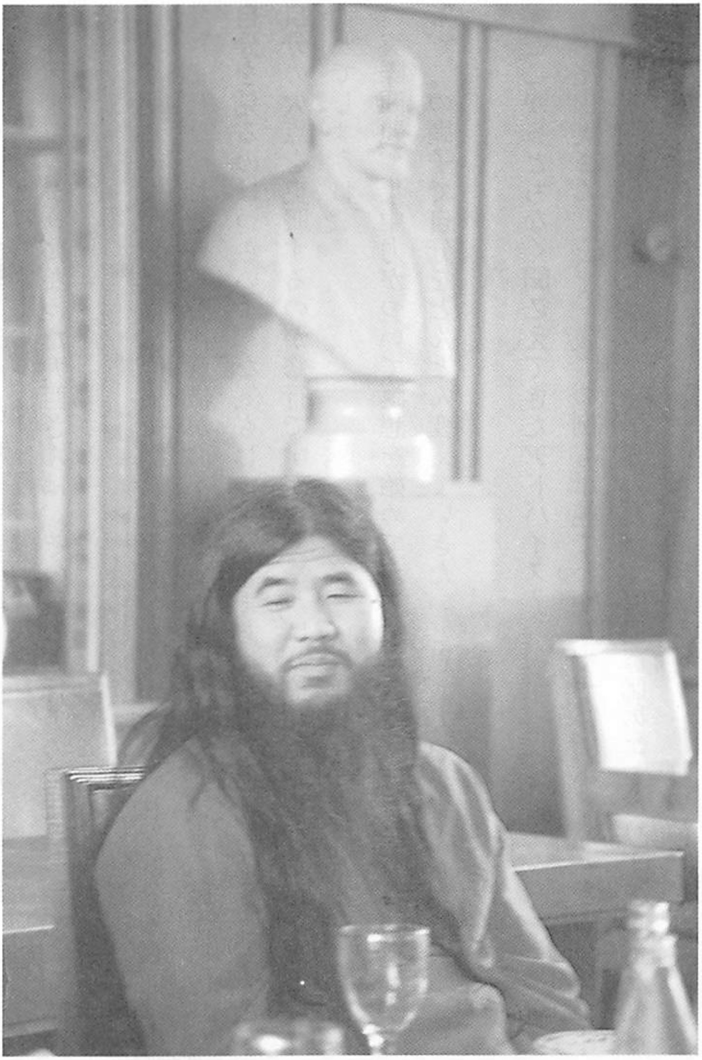
ところが、それから一日、二日経ってからが大変だったんです。頭頂が冷たくなってサーッとエネルギーが落ちてくる感じがして、マントラを唱えていると水の中でグラグラ揺れているようなそんな感じが続くんです。これまでイニシエーションはいろいろ受けましたけど、尊師直接のエンパワーメントがこんなにすごいとは……。

エネルギーそのものが精妙というか微細というか全然違うんですよ。今まで正悟師からのシャクティーパットを四回（内訳はヤソーダラー正大師三回、マイトレーヤ正悟師一回）受けていますが、尊師直接の五大エレメントのエンパワーメントはたった十秒間のエネルギー移入なのにわたしにとっては十分間のシャクティーパットに相当するような、そんな感じさえしました。」

さらに、霊性の高い大西さんならではのこんな体験もある。

「九二年の年頭の五大エレメントのエンパワーメントだったと思いますが、こんな不思議な体験をしました。前の列の方から順番に受けていくわけですが、エンパワーメントを受けられて戻ってきた方の周りの空間が明るくなっていくんですよね。ちょうど、並んでいるろうそくに順番に火をつけていくような、そんなふうに見えるんですよ。オウム真理教ではよく『真理の灯明で云々……』という言葉を使われますが、あのときはその言葉の意味がよく理解できました。」

最後に、尊師からの直接のエンパワーメントを経験されて以来、心も明るくな



りエネルギッシュになった大西さんは、その後の修行上の変化についてこう語った。

「心が明るくなった反面、今まで隠れて気がつかなかった汚れた部分も表面に出てきました。おそらく潜在意識が徐々に出てきたのだと思います。確かに汚れた自分を見るのはつらいような気もしますが、まあ、本当の自分を証智(しょうち)し、そんな自分の欠点を克服するのが修行ですから、やっぱりそれだけ修行が進んだということでしょうね。

実際問題、集中力がついて瞑想を始めてから悦に入る状態も早くなっていますし、この調子で自分をどんどん変えていきたいと思っています。」

●どこからともなく聞こえてきたアドバイス?

岩尾由美さん(三十一歳)の例も単純でわかりやすい。小さいときから神秘体験らしきものは全くなかった岩尾さんだが、麻原尊師のエンパワーメントを受け

て、ついに体験した。一九九二年二月のことである。

「尊師からエンパワーメントを受けてもいつも顔が熱くなる程度でしたが、このときは初めてはっきりした体験をさせてもらいました。

この日、わたしは続けて二つのイニシエーションを受けたため朝からずっと食事を取っていないような状態でした。昔から胃腸が弱く、食べなければお腹が痛くなり、食べ過ぎたらお腹が痛くなりを繰り返したくらいで、このときもそんな心配をしていたら、案の定、帰りの車の中で腹痛を起こしてしまったのです。

まあ、ここまではいつものとおりでしたが、この日はここからが違いました。帰りの車の中、そんな自分にふがいなさを感じながら苦しんでいると、突然、どこからともなく尊師の声が聞こえてくるのです。

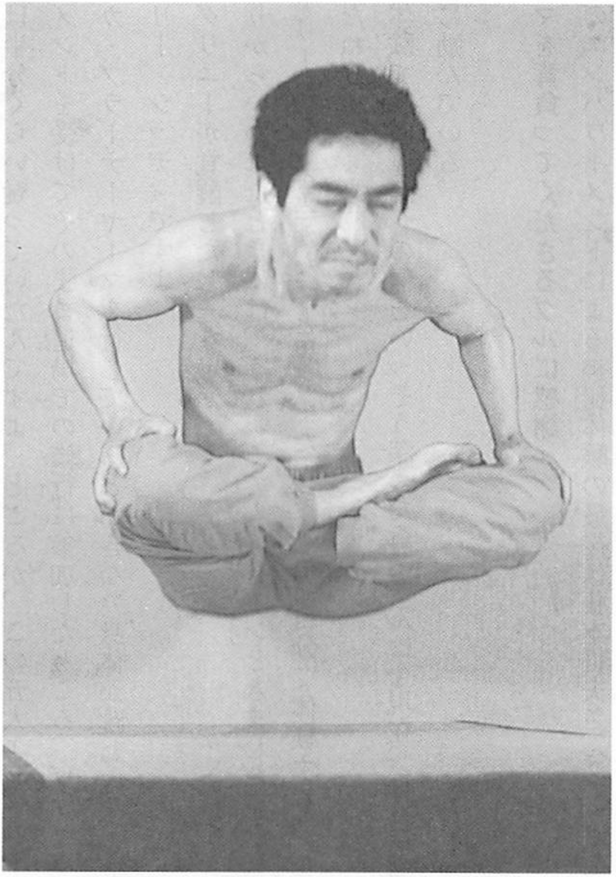
『観念！』

全部は聞き取れませんでしたが、確かにこの言葉だけは今でもはっきり思い出せるほど鮮明に聞こえました。

この体験を隣で運転していた主人に話すと、
『それはおまえが観念的で、今もその観念によって苦しんでいるから尊師がそうおっしゃったんだろうね。』
と言われました。」
ちなみに、その時点で彼女の原因不明（？）の腹痛が治っていたのはいうまでもない。

◉「クンダリニーが覚醒した！」

「神秘体験かクンダリニーが覚醒するか必ず体験できるから今回のイニシエーションは絶対に受けるべきだ。」
斎藤晴敏さん（十九歳）がこう言われて五大エレメントのエンパワーメントを受けたのは一九九一年末のこと。その直後にダルドリー・シッディを体験されたこともあって、言葉どおりの体験に本人の弁もいたく滑らかである。



空中浮揚の前段階で起こるダルドリー・シッディ。

「初めは半分くらい疑っていたんですよ。ところが、この五大エレメントのエンパワーメントを受けてそのまま道場での修行に参加したところ、ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマを行じているといきなり身体が跳ね出すんですよ。ダルドリー・シッディですよ。

『クンダリニーが覚醒したじゃないか。』

と周りからいわれたときには、うれしくてもうジーンときました。それまでは『ダルドリーなんて本当かな』と思ってたんですが、自分で体験することで確信しましたね。」

この体験で麻原尊師への信をいっそう深めた斎藤さんは今現在、毎日道場に通って修行に励んでいる。

◉カルマを背負ってくださるグルに感謝

奇跡のエンパワーメントによる神秘体験の最後は藤本哲夫さん（二十七歳）に

締めてもらおう。

「一九九一年十月、初めて麻原尊師直接のエンパワーメントを受けさせていただきました。月並みですがわたしもその直後にエネルギーが上がったり、また、エネルギーが強くなったりしました。

でも、このときもっと強く感じたのは、麻原尊師というのは我々にとってはキリストのように拝む対象ではなくグルなんだということがよくわかりました。エネルギー交換によってグルを実感できましたし、グルとのパイプが太くなるのがわかりました。

実は、つい先日もわたしはグルヨーガ・イニシエーションを受けさせていただきました。元来、地獄のカルマが強いらしく、蓮華座もなかなか組めないで苦労させられていますが、このエンパワーメントのときは自分のカルマを尊師にしょっていただいているのが本当によくわかるんですね。エネルギー移入していただいているとき尊師の足がぴくぴく動いて、おそらく激痛が走っているのだと思いま

すが……。
普段は蓮華座を組むのもひと苦労のわたしですが、こういうイニシエーションの直後には楽々蓮華座が組めるようになるんです。まさにカルマの交換の証明です。こんなわたしのカルマをしょって、そして導いてくださる尊師の慈愛に感謝しています。」

II　わたしを神通力者にしたエンパワーメントの奇跡

◉心の声が聞こえる！

まずは喰田和伸さん（二十一歳）のケースから。彼の体験は、人の魂に宿る不思議な力を発現させるエンパワーメントの効果を如実に表わす例として、大変興味深い。

「これはグルヨーガ・イニシエーションを受けたときの話ですけど、二つほど面白い体験がありました。その一つ目は、これは近未来の予知なのか、それともいわゆる念力なのか……、とにかくそういう体験です。

せっかく最高に素晴らしいエンパワーメントを受けたのだからその効果も最大限に高めたいと考えたわたしは、エンパワーメントからまるまる二日間、アパー

トにこもって修行をしていました。それも、リトリート（独房）気分で押し入れに閉じ込もってグルヨーガ・イニシエーションで伝授された瞑想をひたすら繰り返し行なっていたわけです。このときは食事を取ることも忘れていたくらい、熱心に修行していました。

その不思議な体験は、そんな生活を二日間続けた直後、オウム真理教の道場に顔を出したときに起こりました。そのとき道場にはアストラル音楽がかかっていたのですが、たまたまその音楽をかけていたカセットデッキに意識を集中した瞬間、何を考えたのか「カセットデッキにゴミが詰まって、モーターが止まって壊れてしまう」といった内容のことが頭に浮かびました。するとその次の瞬間、突然音楽が止まってしまい、本当にカセットデッキが壊れてしまったではありませんか。正直、びっくりさせられました。

もう一つは、確かその体験の翌日か翌々日のことだと思います。やはりオウム真理教の道場での話です。ある女性と話していたんですが、なにやらかみ合わな

い。表現力に乏しい人で、また、たどたどしく話していたため相手の話がよくわからなかったのです。

そのとき突然、聞き覚えのある女性の声が頭の中に響きました。

『尊師心配しないでください。わたしに与えるエネルギーをどうぞ他の人に与えてください。わたしは大丈夫ですから……。』

確かに目の前で話をしているその女性の声なのです。一瞬我が目を疑いましたが、相手に確かめてみると、頭の中に響いた声が彼女の言わんとしていたことであることがわかりました。

『他心通というのはこういうものか！』

気づいたとき心の中でこう叫んでいました。」

◉未来がわかる！

デザイナーの石田裕子さん（二十七歳）はもともと霊性が高く、幼いころから

予知夢を見ることが多かった。彼女の場合、もともと神通力を使いこなせる種子を持ち合わせていたわけだが、それがオウム真理教に入信し、麻原尊師からエンパワーメントを受けることで一気に花開いた。

「予知夢をよく見るんですが、以前は役に立たないようなくだらないものが多かったんです。例えば、赤い風船が割れる夢を見てビックリして夜中に飛び起きたことがあるんですが、その翌日、外を歩いていると耳元でいきなりパーンと音がしたかと思うとそのへんの子供が持っていた赤い風船が割れて大泣きを始めたとかどうでもいいようなものばかりだったんですね。

ところが、オウム真理教に入信して、それも尊師のエンパワーメントを受けるようになってからその予知夢の内容もガラッと変わりました。より正確でかつ自分の危険を回避させてくれるようなものを見るようになったんです。」

最近ではこんな例があった。実は一九九二年三月、オウム真理教ではロシアから招待を受けて「ロシア救済ツアー」を行なったが、その詳細が発表される前に



1992年３月、モスクワのクレムリン大会宮殿で行なわれたオペレッタ「死と転生」。

この予知夢ですべてを知ってしまった彼女は、「お蔭で自分に降りかかることになっていた危険を回避できた」と自信を持って語る。

「まだ正式に発表になる前で、その国がまだ〝某大国〟といわれている時期に、ロシアに行く夢を見たんです。しかも、そこではなぜか自分が柄にもなく正装していて、それでバクティー（奉仕活動）をしてるんですよ。おかしいなと思いましたけど、これってモスクワのクレムリン大会宮殿でのオペレッタ『死と転生』のときのバクティーの光景そのものだったんですよね。この他にも、尊師がロシア人の人に白い箱を渡しているヴィジョンを見たり、まあ、これは後で注射針を贈呈しているところだとわかったんですが、そういう夢で見たものがこのロシアツアーの間にほとんど現実になりました。

で、その中で問題だったのがわたしが迷子になるヴィジョンなんです。夢の中でわたしは地下鉄の駅のホームで一人迷子になって困っていたんです。これはロシアに行ってからわかったのですが、モスクワの街って地下鉄網がすごく発達し

てるんですよ。へたに使ってたら危うく迷子になるところでした。もちろん、夢での体験が教訓になって周りの人にも気を使ってもらっていたから今回は迷子になるようなことはありませんでしたけど……。」

◉同僚のケガを夢で見た

川口孝さん（二十八歳）もエンパワーメントを受けて以来、未来予知能力がついたという。もっとも、川口さんの場合、直接的なエンパワーメントではなかったが、秘儀瞑想法伝授のイニシエーションで一気に目覚めた。一九九〇年一月のことである。

「尊師のいわれたとおり唱えられていたマントラに集中していたんです。すると壇上に座られていた尊師と一瞬目が合ったような感じがしたら、その次の瞬間から胸のアナハタ・チァクラがきりきり痛み出しました。六時間の瞑想中、ずっと胸を押さえていなければならないほどすごい痛みでした。で、そんなことがあっ

てから予知夢とか過去世を見るようになったわけです。」

数ある予知夢体験の中から顕著な例を挙げると、

「会社で同僚がケガをする夢を見たんです。するとその二週間後にはその同僚が本当に右手の親指を切ったんですね。それがまた夢で見たところと全く同じなんですよ。

あと当時勤めていた会社の専務が従業員に知らせることなく工作用機械の配置替えをしたことがあったんですが、そのヴィジョンも事前に見ていたんですよ。ただ、このときは自分のアストラルの濁りのせいで機械の配置替えとはわからずにその機械が夢の中ではタンスになってましたが、朝会社に行ったら確かに夢で見たタンスたちと同じ位置に機械が配置されていました。

ちなみに過去世は、インドの女性の修行者だった生と、おそらく大正か昭和初期の日本で宗教団体に入っていたときの生で警察に弾圧されている鮮明なヴィジョンを見ました。」

もちろん、これだけ変化があったのだから環境も好転した。勤めていた会社で新型の工作機械を購入することになったのだが、その中心的部分を任されるという話が持ち上がってきたのである。わかりやすくいえば、いわば一平社員から幹部候補生への華麗なる転身である。

「そのちょっと前に夢で見たヴィジョンがまた面白くて、なぜか自民党の議員が現われて金の天秤と銀の分銅を指して、『これは天皇家に代々伝わるもので、これを手にすれば何不自由なく生きていける云々』といったようなことを言っているんですよ。でもちょうどそのとき尊師が通られて、僕はその天秤と分銅を捨てて慌てて尊師を追いかけているんですよ。

で、その直後に会社から、いわば幹部の道を歩めるようなそんな誘いの話があったわけです。おそらく現世幸福を取るのか、修行の道を取るのか二者択一の選択で試されていたんでしょうね。」

エンパワーメントにより様々な体験をなし、グルへの信を人一倍培ってきた川

口さんが修行の道を選択したのはいうまでもない。この直後、会社を辞めた彼は現在、出家して解脱することを目指して修行の日々に明け暮れている。

III　すべてを思いのままにする奇跡のエンパワーメント

◉突然の収入アップ

麻原尊師に巡り合う以前から様々な神秘体験を重ねていた宮脇誠さん（二十五歳）が初めて尊師直接のエンパワーメントを受ける機会を得たのはやはり一九九一年十一月の五大エレメントのエンパワーメントでのこと。続けて九二年の一月にも同じエンパワーメントを経験するが、さすがに霊性が高い宮脇さんだけあって体験談もユニークである。

「尊師直接の初めてのエンパワーメントは確かオウム真理教の横浜支部道場で受けました。もう受ける前から、部屋に入った途端、尾てい骨から胸の辺りまでエネルギーが直径五、六十センチの幅で一気に上がってしまって大変でしたよ。自

分ほどではないですが、霊性の高い友人たちもみんな同じようなことを言ってましたね。

本当に、それだけで心がポアされてチェンジしてしまって、ひたすら修行に集中できるんですよ。なんかもう尊師に触れられる前から尊師の発するヴァイブレーションで浄化されていくような、そんな感じでした。

で、また、エンパワーメントの後がすごいんですね。まろやかな心地良いエネルギーが広がって、心身は軽快でエネルギッシュになって、それでいて周りのことにいっさい心が動かないんですよ。ちょうど煩悩に対してバリアができているような感じで……。」

また、彼の場合、このエンパワーメントの際にフラッシュのような光を見る体験もあった。

「いきなり目の前で白い光がパッと広がったんですよ。神秘体験も結構多い方でしたが、やっぱり尊師直接のエンパワーメントの後は違いますね。

実はエンパワーメントの直後に尊師から『しっかり修行しなきゃ駄目じゃないか』と頭をコツンとやられたんですよ。全部お見通しというか、わたしにとって麻原尊師は何でもわかってくださる、本当に素晴らしいグルであるとあらためて実感させられました。」

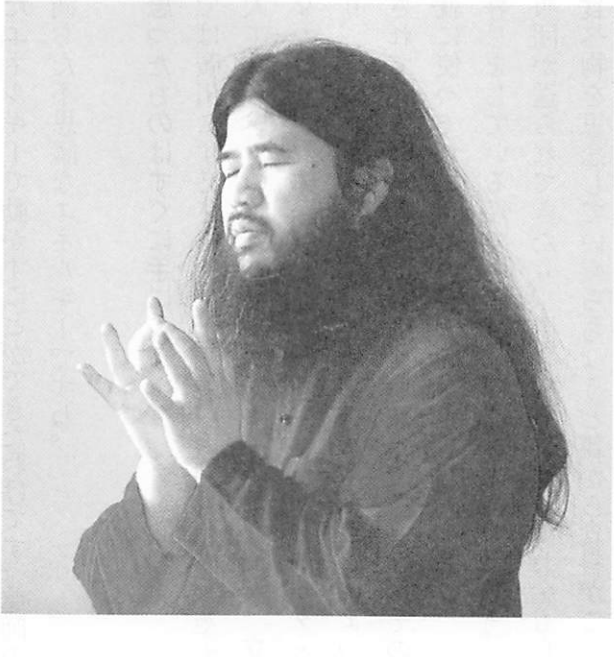
こんなふうに様々な体験を語ってくれた宮脇さん。とはいえ、彼の場合、エンパワーメント以来、願望成就の力もますますパワーアップしたという付加価値もあるからすごい。常日ごろから「布施をしたい」と思念していたわけだが、この日を境に経済環境が一気に、まさに花が開くように好転していったというから面白い。

「自分の場合、最近は警備の仕事をしてるんですが、一週間、昼夜出続けても週十四勤が限度なんですよ。ところが、尊師からエンパワーメントしていただいた直後から、予定より早く終わって次の仕事が入ってというような、一日三勤といったた信じられないことが続くんですよね。あとは他の人が仕事をもらえないような

ときでも簡単に仕事が入ってきたり……。エンパワーメントの直後は二カ月連続で五十万円以上の収入がありましたからね。面白いように次から次へと金が稼げて、お蔭で念願だった布施もようやくできるようになりました。これは尊師のエネルギーを一方に思念させて使わせていただいた成果に他なりません。尊師には本当に感謝しています。」

さらに、その後の環境の変化も著しかった。万事が円満というか、今までだったらとても寄りつかなかったライバル心むき出しの人間たちともいつの間にか懇意につきあえるようになり、安定した心の状態が継続的に保てるようになったという。

「尊師の愛のエネルギーの力は本当に偉大ですね。これは極めつけの話ですがこのエンパワーメントを受けてから、なんと足掛け四年間かかって真理施を続けていた友人をようやくオウム真理教に導くことができたんです。教義は理解していたんだけど世間体などを気にして否定的だったたんですが、そういう人間の心を尊



師からいただいたエネルギーで動かすことができたわけです。尊師のエネルギーって本当に神秘に満ちた不思議なエネルギーですね。」

◉「欲しい」と思ったものはすぐに手に入る

願望成就の例では廣川こずえさん（二十三歳）の例もわかりやすくて面白い。九二年二月、五大エレメントのエンパワーメントを受けた彼女。立位礼拝の最中、突然、立てなくなったり、身体が熱くなったり、また、アナハタ・チァクラ（胸部）が振動したり、声が出なくなったりと尊師のエネルギーによって各部位が次から次へと浄化されていくのが自分でもよくわかったそうだ。その不思議なエネルギーを願望成就に使ってしまったのが次のケース。

「東京でひとり暮しをしているんですけど、『羽布団が欲しいな』と思ったら数日後に親から羽布団が送られてきたり、置き引きに遭ってお金も食べるものもなくて困っていて食べ物を思念していたらちょうど親から食料がごっそり送られて

きたり、つい思念してしまったことが次々と現象化してしまうんですよ。尊師からいただいた貴重なエネルギーをそんなことばかりに使っていて、本当に申し訳ないと思いますけど……。」

ちなみに、そんな彼女の現在の目標は、願望成就によって現世的、煩悩的になりがちな生活を変えていくために、「自己の欲求を捨断して精神ステージをアップさせること」ということである。

◉欲しいと思った服が実家から送られてきた

両親のもとを離れて早々と独立を果たした吉井隆浩さん（十七歳）も、一九九一年十月に五大エレメントのエンパワーメントを受けて突然、〝体験〟してしまった。それまで神秘体験のかけらも見られなかったが、このエンパワーメントをきっかけに熱心に修行を始めると、すぐさま背骨が熱くなるクンダリニーの体験や、光の体験をしてしまった。

「つい先日、グルヨーガ・イニシエーションを受けたのですが、このときは体中にエネルギーが満ちあふれている感じで、ビリビリしびれているようでした。オーバーに聞こえるかもしれませんが、普段だったら師の方（クンダリニー・ヨーガの成就者）とすれ違うだけでエネルギー差を痛感してしまうのですけど、このときは全くエネルギー差を感じさせませんでした。」

また、彼の場合、エンパワーメントを受けてから願望成就も続いた。欲しいものは何でも手に入るような、まさにそんな感じだった。

「欲しかった服があったんですよ。そのときは靴も欲しいなと思ってたんですね。でも金がなかったから買えなかったんですよ。

ところが、翌日実家から荷物が届いていて、開けてみたらいろんな物の中に靴や服がしっかりと入っていたんですよ。服なんて自分が欲しかったその柄そのものでしたからね。さすがに靴は欲しかったのとは別のものでしたけど、こんなことがあるんだと驚きました。

また、この年齢にしては収入のいい仕事にも就けましたし、日給一万八千円くらいの仕事が勝手に転がり込んでくるわ、本当にエンパワーメントの効果ってすごいですね。」

◉煩悩が消失して心は安定

仏教やヨーガの世界では、呼吸の長さは煩悩に比例するといわれている。煩悩が少なければ少ないほど呼吸の間隔は長くなるというわけだ。つまり、クンバカといわれる保息、この時間の長さで心の安定の度合いだって見ることができるのである。そういう目で見たら藤田浩子さん（二十三歳）が我々の目の前で体験した出来事は大変興味深い。

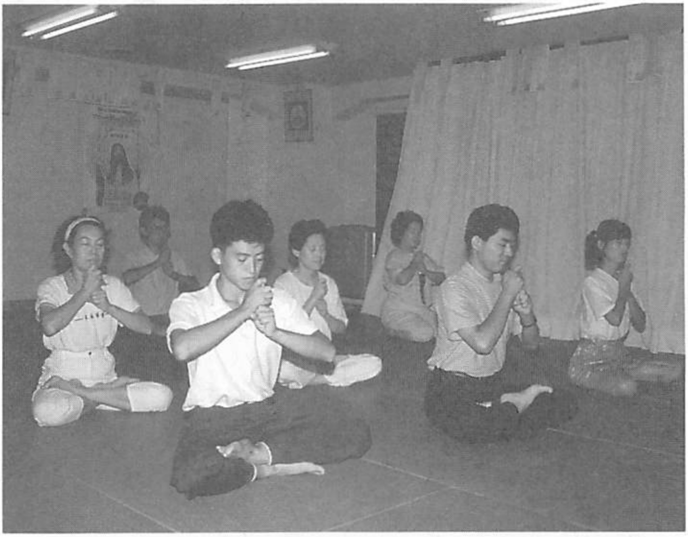
「もともとわたしは、クンバカというのはあまり得意ではなかったんです。これまでに最高でようやく三分いくかどうかという程度で、寂静の境地とは全く無縁でした。」

ところが、この取材のちょっと前に不思議なことが起こった。道場に集った修行者たちとクンバカの長さを競ったところ、なんと四分二十六秒まで記録が一気に伸びたのである。

いったいどうしてこのようなことが起こったのか? その秘密はやはり麻原尊師のイニシエーションにあった。小乗のツァンダリーという秘儀瞑想の伝授を受けた彼女は、このとき瞑想の詞章を朗読する尊師の声入りの秘儀瞑想テープに意識を集中したのである。つまり、これが間接的エンパワーメントになっていたわけで、それが彼女の心の安定、寂静の境地をつくり出していたわけだ。その境地が一分三十秒近い記録更新という信じられない記録を生んだわけである。

「最近、クンバカの練習も全然していませんでしたし、これは絶対に瞑想テープのお蔭に違いありません。尊師のエンパワーメントも、そしてオウム真理教の修行は必ず結果が伴うから本当にすごいと思いますし、信頼できます。」

その彼女はこの直後、今度はグルヨーガ・イニシエーションを受けたそうだ。



機会があったらそのときの体験もどこかで紹介させていただきたい。

◉ジャンケンでも連戦連勝

一九九二年一月、在家で見事にラージャ・ヨーガの成就を果たしたカンティーさん（三十三歳）。やはり古くから尊師のエンパワーメントを受けているだけあって神秘体験など挙げれば枚挙にいとまがない。ここではそんな彼女の体験の中から、願望成就にまつわるエピソードを一つ紹介しよう。

九一年十月のことである。オウム真理教ではサキャ神賢の足跡を訪ね、各地で供養を行なう「インド巡礼ツアー」を企画。熱心な修行者である彼女ももちろんこれに参加した。これはそのときのこぼれ話である。

「ギッジャクータ山で経行（きんひん）を行なったときのことです。どこの班が尊師の近くを歩けるか、要するにジャンケンで順番を決めたんです。なにせ二百人以上の参加者がいるから経行の順番とはいえ、常々から『尊師の近くを歩きたい』と思って

いる人たちですからその思念たるやもう大変でした。

で、ジャンケンが始まったんですが、わたしの場合、これがまた不思議と勝ち続けるんですよ。負け知らずという言葉がぴったりで、信じられないことに行きも帰りも無敗で尊師の側にぴったりくっついて歩かせていただきました。

これは余談ですが、実はこの前日からわたしは尊師の三女であられるウマー・パールヴァティー・アーチャリー正大師とジャンケンをして遊んでいたんです。このときも連続で勝ち続けて……。おそらくこれも願望成就の一種でしょうね。功徳を消耗しているようで怖くなりました。」

なお、このときはジャンケンの勝敗に向けられていたらしき彼女の願望成就の思念も、その後は修行に対して反対の意思を表明していたご主人に向けられたようで、最近では反対の姿勢を貫いてきたご主人も徐々に軟化。あくまで、徐々に、であるが二人そろって修行に励む機会も増えてきた。

「別に主人だけでなく、わたしの通っている船橋支部道場に来る人たちみんなが

もっと修行するように、と祈願していたんです。以前はわたし以外に道場でコース（※クンダリニー・ヨーガ成就者の指導によるセミナー）に出る人も皆無でしたし寂しい限りでしたから。でも願望がかなって、最近では主人を含めて一緒に修行ができる仲間が増えて、本当に良かったと思います。」



◉受ける度に職場が変わって充実

一九九一年十一月に行なわれた五大エレメントのエンパワーメントでやはり初めて尊師直接のエンパワーメントを経験された下津哲也（二十三歳）さんは、そのときの体験をこんなふうに語っている。

「エンパワーメントを受けた直後は上に引っ張られるような感じで、気というかエネルギーが上昇していくのが自分でもわかりました。蓮華座を組んで座っているんですが、上に引っ張られるような感じで……。で、マントラを唱え始めると跳ねるんですよね。以前からダルドリー・シッディは経験ありましたけど、このときは本当に顕著でしたね。

ちなみに、九二年一月のグルヨーガ・イニシエーションのときは神秘体験ももっと明確でしたね。エンパワーメントの最中は尊師が手を当ててくださった部分に温かさを感じたくらいでしたが、その後に詞章を唱えていると紙に書かれた文字がいきなり黄色く変化して見えるんですよ。さすがにこのときはびっくりしました。」

この下津さんの場合、麻原尊師の神秘性についてはやや異なったケースでもすごい経験をしている。オウム真理教には麻原尊師が希望者から相談を受ける「シークレット・ヨーガ」という一種のエンパワーメント（直接相手に触れてのものではないが……）を伴った個別面談システムが用意されているが、そのシークレット・ヨーガを受ける度に、「面白いように環境がいい方向に変わっていく」というのである。以下はそのときのエピソードである。

「環境の変化は何度かありましたが、一番顕著だったのはコンピュータ会社に勤めていたときですね。シークレット・ヨーガを受けてから出向先が突然変わった

んですよ。商社系のコンピュータ会社のA社を任されていたときは既存のプログラムを修正したりといった雑務的な仕事が中心であまり面白くもなかったんですね。ところが、シークレット・ヨーガでの尊師に相談した直後に異動があってあるシンクタンクに移ることになったんです。その途端に仕事内容がガラッと変わって、プログラムの新規作成がメインで仕事自体も面白くて、しかも、残業時間が増えて収入もアップしたんです。シークレット・ヨーガを境にそんなことが何度かありました。

そういえば最近もこんなことがありました。今は警備の仕事をしてるんですが、ちょうど悪い状態が続いていて週に三、四回しか勤務が入らなかったんですよ。ところが、やはり尊師のシークレット・ヨーガを受けた直後に仕事が急に来るようになって、いきなり週五、六回になったんですね。まさしく尊師からのエンパワーメントを受けた結果だと思います。」

◉人間関係が円滑に

つい最近、修行を始めたばかりの恵谷直浩さん（三十一歳）も、自分を取り巻く周囲の人々の様子が変わって幸せ気分を満喫している一人。きっかけは一九九二年初めの五大エレメントのエンパワーメントだった。

イニシエーションの直後こそ、「尊師が指を当てられた額の部分が熱くなったくらい」とさして変化のなかったことにやや不満を感じていたようだが、以後、明らかにわかる変化が生じて本人もびっくり。

「身の周りの状況がもうガラッと変わりました。会社での人間関係も以前は円滑にいかずになにか歯車がかみ合わないようなところがあったんですが、このエンパワーメントをきっかけに徐々に好転していきました。お蔭様で今では万事うまくやらせていただいています。オウム真理教に入信して、エンパワーメントを受けてから変わっていきましたからこれもやっぱり尊師の神秘力のお蔭と感謝しています。」

◉部下から信望を得る秘訣はエンパワーメント？

コンピューター会社に勤める坂口剛さん（三十六歳）は、古くからオウム真理教で修行を行なっている修行者の一人。これまでシャクティーパット、グルヨーガ・イニシエーション、五大エレメントのエンパワーメントなど麻原尊師の直接のエンパワーメントを多々受けているだけあって体験も豊富。もちろん、幽体離脱のような神秘体験なども多いが、ベテラン修行者らしいこんなエピソードもあって大変ユニークである。

「グルのエネルギーを無駄に使っているわけではありませんが、仕事をうまくやっていくためにはどうしてもエネルギーを分けてあげなければならないことがあるんです。意識的に分けているわけではありませんが、接するだけでエネルギー交換が起こりますからそれも仕方がありません。まあ、親分肌というか、面倒見がいい方ですからね。だからみんなにエネルギーを振りまいてボロボロになってまた尊師のイニシエーションで高めるというような、大乗の修行のようなものをさ

せてもらっているようです。
ただ、お蔭様で部下からの信望は厚く、人間関係なんか最高だと思いますけど。それだけ尊師のエネルギーがすごいということですよ。」

ところで、坂口さんが部下から信望を集めているのにはもう一つ理由がある。それは本来この項で述べることではないが、エンパワーメントによって発現した彼の神通力によるところが大きい。

「電車に乗ってるときなど何かあるなと思って連絡も疎遠になっていた取引先に電話すると、そのときちょうどトラブルが発生しかけていたり、そういうことが何度も続くんですよ。で、そういう姿を部下たちにさり気なく見せつけていますから、周りはかなりショックを受けているみたいですね。みんな一目置いていますね。

まあ、実際、会社の役に立っているから、例えばオウム真理教のツアーに参加するためにまとまった休暇を取るときでも話はわかるし、本当に恵まれた環境だ

と思います。」
取引先の担当者まで不思議がる神通力の持ち主、坂口さんの天下は、どうやらしばらく続きそうである。

◉仕事に修行に充実

「エンパワーメントを受ける度に意識がポアされて意志が強くなっているような、そんな感じさえしています。」
と語るのは牧野修一さん（三十七歳）。一九九一年十一月には五大エレメントのエンパワーメント、そして最近はグルヨーガ・イニシエーションを受けるなど麻原尊師直接のエンパワーメントを受けながらコツコツとステージを高めてきた一人である。
そんな彼の今の人生はまさに順風満帆の様子。思ったこと願ったことは思念すれば必ずかなうようで、安定した生活の中で熱心に修行に取り組んでいる。

「願いがかなうといっても、修行絡みのことがほとんどですね。まあ、仕事がら比較的長期に渡っての休暇も取れるというか融通がききますが、例えば先だっての『スリランカ救済ツアー』（※九二年五月に行なわれたオウム真理教のツアー。二日間に渡るコロンボでのオペレッタ「死と転生」公演などを行なった）にも参加できましたし、こと修行に関してはなぜか万事うまく事が運んでくれているようです。

例えば、あのときはその時期に塾の生徒が学校の修学旅行に当たっていたりして、一週間程度の休みを取ろうと思うとやりくりしてみればできてしまうんですよ。妻も協力してくれましたし、グルのエネルギーがあると本当にうまく進みますね。」

種々のエンパワーメントの成果か、最近、特に修行の必要性を実感している牧野さん。現世的な欲も徐々に消失してきたようで、件の塾経営から離れ、余裕ある人生を送りながら仕事と修行の両立をはかっている。将来が楽しみな修行者の

一人である。



V　不治の病をも治す奇跡のエンパワーメント

◉末期のガン患者が延命！

死を宣告されたガン患者が延命したり、不治の病が治ったり、麻原尊師のエンパワーメントにはどうやら常識でははかり知れない神秘力があるらしい。オウム真理教附属医院（AHI）にも、現代医学ではとても説明しきれないような、不思議なケースが多々ある。

プライバシーの問題もあるのでイニシャルで紹介するが、まずは膵臓ガンで一九九二年五月に亡くなったK・Mさん（八十一歳）のケース。ガンが発覚したのが九一年二月のこと。倦怠感もすごくすでに黄疸も出ているようなひどい状態で、手術である程度症状は抑えていたものの、あとは時間の問題という感じだった。

担当医のヴァジラカツさんは振り返りながらこう語る。

「AHIに入院されたのがその年の五月です。手術といってももう高齢ですから膵頭部のガン細胞の切除まではやってはいないような状態でした。それに耐え得るだけの体力もなかったということでしょうね。で、半年くらいで痛みが出てきて、まあ、もって一年というのがうちに来る前の担当医の診断でした。もう動くのもつらそうでしたし、実際、そのくらいだったと思います。

それで予想どおり八月くらいから痛みが出始めてつらい生活が始まったのですが、これが尊師からのイニシエーションを受けると体調がガラッと変化してしまう。これは本人も口にしていたので確かですが、五大エレメントのエンパワーメントを受けたりすると倦怠感が取れ、顔色が良くなって体調そのものもすこぶるいいような状態が続くわけです。まさしく尊師のエンパワーメントの持つ神秘力のなせるワザだと思いました。」

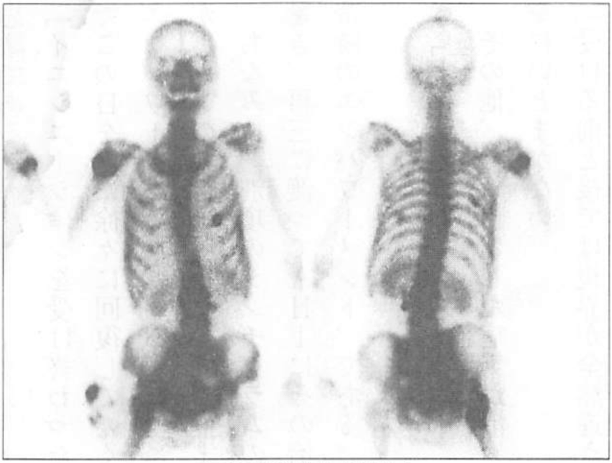
◉ガンが治った！

Y・Rさんの例はもっとすごい。一九九〇年八月、大腸ガンの手術をしたYさんだったが、この段階ですでにガン細胞は骨まで転移しており、まさにいつ死んでもおかしくない状態だった。しかも、術後に脳梗塞まで起こしていたからもう最悪の状態である。

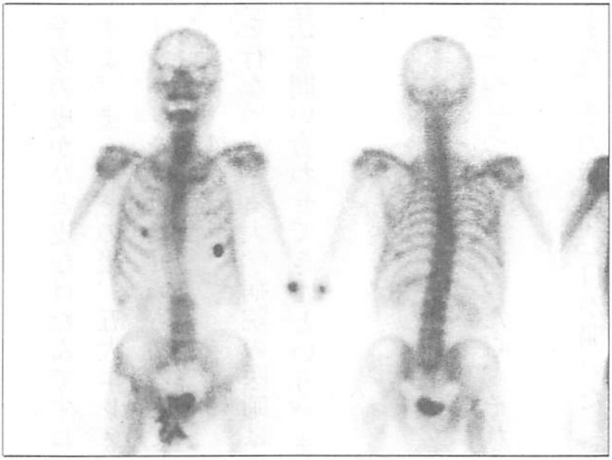
そのYさんがAHIを訪れたのは同年末のこと。当時を振り返りながらAHI顧問の聖者ヴァジラティッサ到達光師が語る。

「本当にいつ死んでもおかしくないような状態でした。ですから、麻原尊師に言われてイニシエーションを受けさせたときも、いつ危篤状態に陥っても対応できるように一通りの準備をして連れていったほどでした。」

ところが、このイニシエーションで奇跡が起こった。このとき行なったのはグルヨーガ・マイトレーヤ・イニシエーションだったのだが、いつ死んでもおかしくない状態だったはずがみるみるうちに元気になっていったというからやはり不



1991年5月31日



1992年3月12日

Y・Rさんのガン細胞を撮影したシンチグラム。ガン細胞を表わす黒い点が右肩・上部腰椎・仙骨部から消失しているのがはっきりとわかる。

思議である。
「イニシエーションを受け終わった後、全身の皮がひと皮むけたんですね。それでこの日を境に徐々に回復していくんですよ。まあ、その後、五大エレメントのエンパワーメントなどいろんなイニシエーションを受けたせいもあるんでしょうが、ガンの進行は遅くなって、止まって、消えました。」
ちなみに、別項のシンチグラムの撮影を行なったさる大学病院の医師はいたく驚き、再三に渡ってＡＨＩにその治療方法を問い合わせてきたという。まさに、奇跡のエンパワーメント、である。

◉「よく見える！」

その他、ちょっとした病気が治った例を一つ一つ挙げていったら、それこそ枚挙にいとまがない。
「受ける前と後では視界が全然違うんですね。その瞬間、『目が開いた』としか

表現できないような……。」

と貴重な体験を語ってくれたのは土井正成さん（二十四歳）。一九八七年から修行を始めた熱心な方で、以前に〝祝福〟など麻原尊師直接のエンパワーメントを受けた経験もある方である。

その土井さんのとっておきのエピソードがこれ。九一年十一月に五大エレメントのエンパワーメントを受けたときの話である。

「事前に『尊師のマニプーラ・チァクラ（お腹の部分）を見るように』と注意されていたので、そのとおりに尊師のお腹のあたりに意識を集中させていたんですね。すると、エンパワーメントを受けている瞬間は何も感じなかったんですが、終わって右側に移動して三礼してから目を開けると鮮明なんですよ、目の前の光景が。細かい物まで見えるというような視力の回復とはちょっと違うと思うんですが、目の前の光景がはっきりとしてるんですね。思わず『アレッ？』と首をひねってしまいました。」

また、古くから修行を行なっており、直接間接問わず尊師からエンパワーメントを受ける機会が多かっただけに、土井さんならではのこんな貴重な体験もあるのでついでに紹介しておこう。

「実は麻原尊師に出会う以前は、原因不明の病気に悩まされていたんです。もともと修行に興味があって我流で仙道などをやったりしてたんですが、〝超人〟になるはずが身体は病気になっていく一方なんですね。医者からは『気のせいだから運動すれば治る』と言われましたが、上半身の筋肉が硬直したような感じで息苦しくて仕方がなかったんですよ。そんな状態がずっと続きました。

ところが、麻原尊師のもとで修行するようになってからは、いろんなイニシエーションで尊師からエンパワーメントをしていただいたせいか徐々に状態が良くなりまして、今では若干右肩が痛むだけの状態にまで回復しています。ここ一年で急速に回復していった感じで、本当に尊師の力はすごいと思います。」

◉心身の健康を獲得

野仲真美さん（二十三歳）も尊師のエンパワーメントを境に健康を獲得した一人。彼女の場合、風邪をひきやすく、喉を痛めたり微熱が出たりで病院に行く機会が非常に多かったが、やはり九一年十一月の五大エレメントのエンパワーメントを受けられて以来「全く病院にかからなくなりました」と笑顔で語ってくれた。

「昔から喉を痛めたり発熱で調子を崩すことが多かったんですよ。それも〝病は気から〟ではないですが、学校やアルバイトに行きたくないときなど必ず起こってその度につらくて病院に通っていたんです。それが、麻原尊師の「五大エレメントのエンパワーメント」を経験してからは全くそういうことがなくなって……。身体そのものも強くなったんですが、それ以上に心が強くなったのも原因みたいですね。

ちなみに、あれ以来わたしの性格もだいぶ変わったようで、母との言い合う機会も極端に少なくなりました。」

また、彼女の場合、エンパワーメントのときにこんな経験もされたそうなので参考までに。

「受けているときは身体が熱くなっただけだったんですね。それが後から頭が痛くなって頭のてっぺんと左側が膨らんできたんですよ。自分でも変化が自覚できるほどすごい勢いでエネルギーが上昇して……。麻原尊師に対する信もいっそう深まりました。」

エピローグ

人の魂に宿る不思議な力――本来だれもが持っているはずのこの力を仏教では「神通力（じんつうりき）」といい、また、オウム真理教では「超越神力（ちょうえつじんりき）」と呼んでいる。そして、この「超越神力」は、仏教の修行によって煩悩を遮断し、さらに、心をどんどん透明にして本当の自分自身（これは〝真我〟と呼ばれているが……）に近づくことで自在に使いこなせるようになり、我々を歓喜に満ちた、いかなるものからも自由な幸福の世界へと導いてくれる。

しかし、この最高の幸福は、そうたやすく得られるも

のでないことはいうまでもない。いにしえの聖者たちが輪廻転生という長いタイムスケールの中で修行に励み、少しずつステージアップをはかりながらこの最高の境地を手にしてきた史実からも、この道の困難極まりない様子がうかがえるだろう。そう、修行者に〝王道〟は存在しないのである。

いや、正確にいうなら唯一〝王道〟は存在するのかもしれない。それがこの本のテーマでもあった「奇跡のエンパワーメント」、すなわち偉大なグルによるイニシエーション（秘儀伝授）なのである。

本書で紹介した多くの体験談からも明らかなように、偉大なグルの偉大な体験のデータを内在した神秘エネルギーは、後に続く者たちに真の幸福の何たるかを教え、

また、真の世界がどのようなものかを教えてくれる。そして、お世辞にも幸せといえない自らのステージと真の幸福を知るグルのステージのギャップを埋めるために尽力し、後からついてくる者の修行を飛躍的に進めてくれるのである。

最高のグルからのエンパワーメント――すべてはここから始まるのである。そして、この本を最後まで読まれたあなたが、最高のグル、麻原彰晃尊師に導かれ、大いなる覚醒の種子を得られることを願って、ひとまずペンを置くことにしよう。

この本をお読みになって、どのような感想をお持ちになりましたか。あなたのご意見を、ぜひ下記までお送りください。

〒418-01 静岡県富士宮市人穴381-1
オウム真理教「奇跡のエンパワーメント」読者係

◆各道場のご案内◆

富士山総本部 0544(54)1267
〒418-01 静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部 03(3327)8565
〒156 東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部（杉並道場）03(3396)9393
〒167 東京都杉並区下井草4-4-4 井口ビル2F
大阪支部 06(397)1022
〒532 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部 092(474)2877
〒812 福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部 052(252)0709
〒460 愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部 011(241)4938
〒060 北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部 075(371)3759
〒600 京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部 022(268)3904
〒982 宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部 0762(51)8457
〒920 石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部 0888(84)8286
〒780 高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部 082(264)6250
〒732 広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部 045(243)8079
〒231 神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
和歌山支部 0734(24)2859
〒640 和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部 0292(26)8044
〒310 茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部 0474(66)4965
〒274 千葉県船橋市新高根6-26-18
那覇支部 098 (869) 7707
〒902 沖縄県那覇市安里2-4-12 嘉数グラビアハイツ5F
深谷出張所 0485(74)6205
〒366 埼玉県深谷市萱場441-8
渋谷出張所 03 (3476) 5065
〒150 東京都渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂317号
〈海外支部〉
ニューヨーク支部 212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部 (0228)616647
Auf dem Hügel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany
スリランカ支部（AUM SACCA SAṄGHA ASSOCIATION）
Sorahena, Watta, Anglugaha, Galle, Shri Lanka

奇跡のエンパワーメント

一九九二年七月十八日　初版発行

定　価　五五〇円

著　者　AUM PRES

発行者　松本知子
　　　　石井久子

発行所　株式会社オウム
東京都世田谷区世田谷二ー八ー一七
郵便番号　一五四
電　話　〇三（三四三九）六〇四三
振　替　東京二ー一〇九三二五

ISBN4−87142−048−5　C0014　P550E

オウムについてもっと詳しく知りたい……
教義その他について、いろいろと聞きたいことがある……
オウムの人たちの生の声を聞いてみたい……
そんなあなたに最適な情報ネットワーク

好評！あなたとオウムをつなぐ パソコン通信、"オウム真理教ネット"

面倒くさい手続きは一切ありません。オウムに興味をお持ちの方、聞いてみたいことがある方は、今すぐお気軽にご利用ください。

"オウム真理教ネット" のご紹介

TEL番号	03-5370-1726
通信速度	1200/2400bps
通信条件	BITS-8 PARITY-NONE STOP-1
プロトコル	X-MODEM Y-MODEM(-G)
ゲストID	GUEST
運用時間	24時間
入会方法	ゲストログイン後、SYSOPあてメールにて申請

●なお、その他詳細は下記までお問い合わせください。

〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
"オウム真理教ネット" 事務局
TEL 03-3335-4965



あなたに絶対の幸福を約束する

——オウム真理教

心身の悩みを解決したい
超健康体を得たい
豊かな生活を送りたい
素晴らしい人間関係を築きたい
スーパー・パワーを身につけたい
来世も幸福に生きたい
解脱し、永遠の至福を得たい

最高の教義、最高の奥儀、そして麻原尊師のもと、すべては確実に実現します。

●オウム真理教が誇る三つの基本的修行体系

1、マハーヤーナ

現実生活をより豊かにし、幸福な人生をお約束します。ご年輩の方、仕事が忙しく時間のあまり取れない方にお勧めです。

2、タントラ・ヴァジラヤーナ

行法、イニシエーションを中心として進め、霊性を向上させて、神秘世界を実体験することができます。この修行体系を選択すれば今生で解脱し、悟ることも夢ではありません。

3、テーラヴァーダ

原始仏教の上座部仏教を再現しました。真理にのっとって清浄な日常生活を送ることによって、幸せな来世が約束されます。また、経典の記憶修習によって心の成熟が促され、悟りを得ることが可能です。オウム真理教の深遠な教義を徹底的に学びたい方に最適です。

※資料請求券を貼付けしたハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

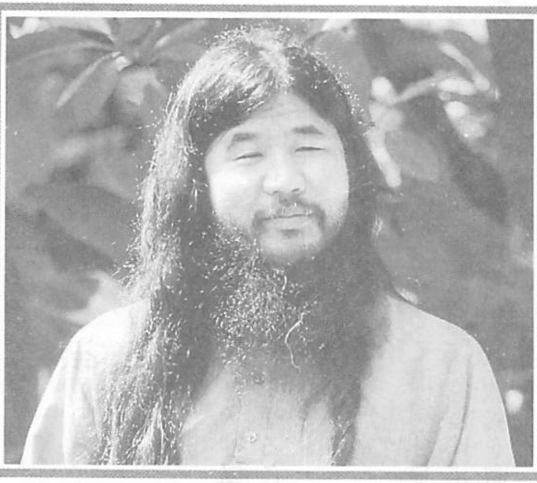
キリトリ線

奇跡のエンパワーメント
資料請求券

ム真理教ラジオ番組

毎日23時から24時まで

テス・バシレイアス



●短 波 17.710MHz 毎日22時から23時まで



「幸せになりたい！ でも、信徒になるのはちょっと……
そんなあなたに贈る最高のプレゼント！」



『えんじょい・はぴねす』の定期購読を申し込まれた方は、様々な特典が受けられる〝EH会員〞になることができます。 EH会員は信徒ではありませんが、自由にオウム真理教のイベントに参加できますし、全国や海外の本部・支部をいつでも利用できます。お気軽にオウム真理教をのぞいてみませんか？

特典の一部を紹介すると……

- オウム真理教主宰のイベント、説法会等へ自由に参加可。
- 幸福情報を満載したEH会員手帳をもれなくプレゼント！
- 成就者との対面および電話による悩み相談。
- 各種販売物を信徒価格で購入可。

"えんじょい・はぴねすの会" 会員（EH会員）になるには?

※入会金無料。月刊『えんじょい・はぴねす』の定期購読を申し込み、料金の払い込みが確認されるとEH会員となります。
なお、定期購読の申し込みは6カ月単位で郵送料込み6000円です。

※詳しくはお近くのオウム真理教本部・支部までお問い合わせください。

麻原尊師のラジオ番組
「エウアゲリオン・テス・バシレイアス」が
100倍楽しめるタイアップマガジン

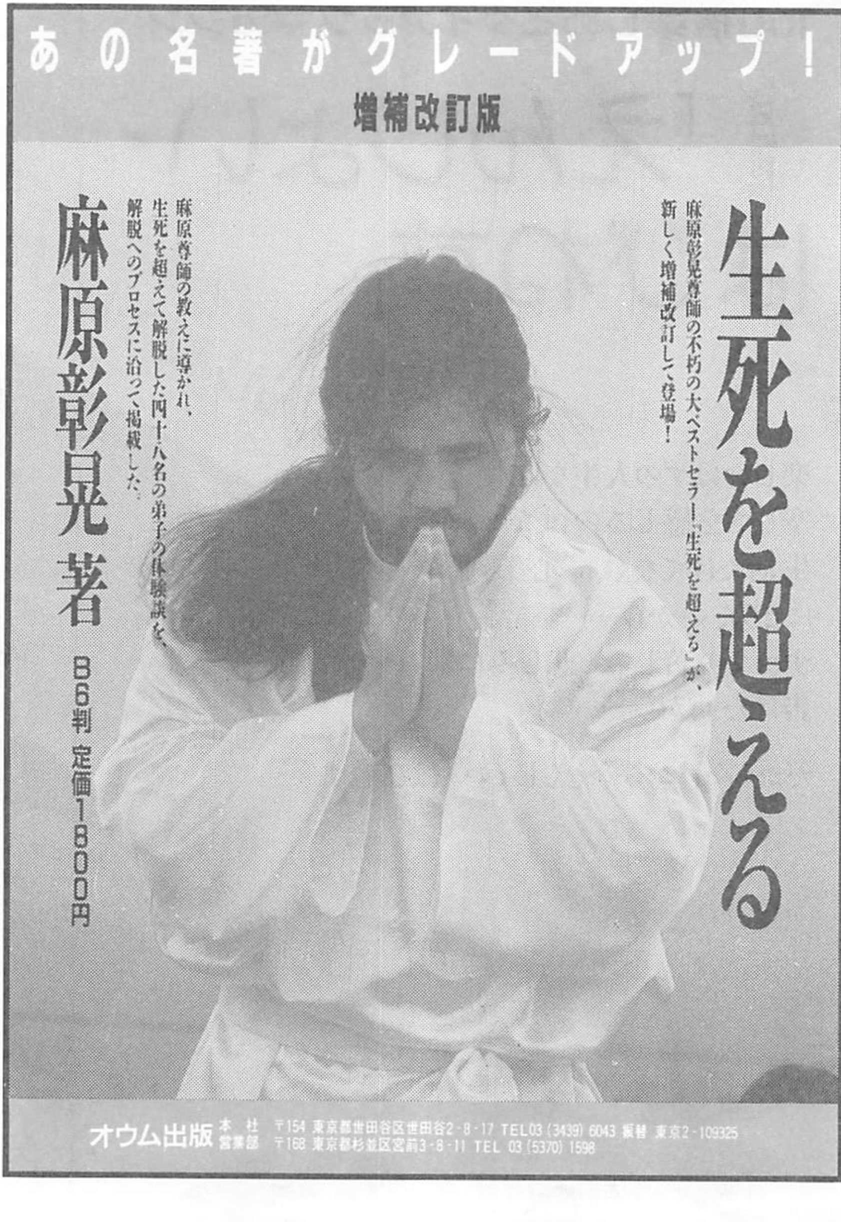
月刊「えんじょい・はぴねす」



楽しいはずの人生なのに、
空しさを感じるのはなぜ？
生活だけでなく、〝心〟も豊か
になりたいから……
すべての苦しみと悲しみに別れを
告げたいから……

だから今日から〝えんじょい・はぴねす〟




あの名著がグレードアップ!
増補改訂版
生死を超える
麻原彰晃尊師の不朽の大ベストセラー『生死を超える』が、
新しく増補改訂して、登場!
麻原尊師の教えに導かれ、
生死を超えて解脱した四十八名の弟子の体験談を、
解脱へのプロセスに沿って、掲載した。
麻原彰晃 著
B6判 定価1800円
オウム出版
本社 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL03(3439)6043 振替 東京2-109325
営業部 〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL 03(5370)1598

仏陀の智慧が光を放ち混迷の時代を照射する

INITIATION

イニシエーション

麻原彰晃著

この名著はすべてを語っていた!

「解脱」「悟り」のプロセスを細やかに説き明かし、
最高の修行法を伝授する。

本来、選ばれた弟子にのみ明かされる秘儀――
ヨーガ・仏教の奥儀を極めた修行の正しさは、
誕生した三五〇名の解脱者が証明する。
さらに、自民党の大勝と大敗、円高の進行、
農作物輸入自由化など、
今日の世界と日本の動向を正確に予言している、
驚くべき記述の数々!

◎「解脱」「悟り」の真実／現代の仏陀麻原彰晃が最高の修行法を公開。

◎タントラ・イニシエーションの全貌／チベット密教・ゲールク派とオウムの秘儀を比較する。

◎確実に核戦争だ!／日本と世界の近未来を予言する。

◎総勢三十一名の体験談／「クンダリニーが覚醒する」「過去世が甦る」「悟りのプロセス」など、これが修行プロセスと霊的ステージの真実だ。

武田 健さん（東京都／学生）
「末法の時代は終わった」ということを確実に感じさせる本である。

松岡謙次さん（愛媛県／警備員）
読めば読むほど、「頑張ろう、やるぞ」と思わせるような素晴らしい本です。

山本 勇さん（石川県／会社員）
解脱するまでの心の状態が、多くの例を挙げてわかりやすく書いてある。

大森恵子さん（山口県／店員）
他の書では得られない絶対なる真理に触れることができた。

武田葉子さん（熊本県／主婦）
「人間として最高の、最終の目的は何か」ということがはっきり示されています。

本間智加子さん（東京都／経理事務）
宗教に対する偏見がいっぺんに吹き飛んでしまいました。



定価2163円 ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。(送料300円)
オウム出版 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 電話03(3439)6043 郵便振替 東京2-109325

奇跡のエンパワーメント



ISBN4-87142-048-5 C0014 P550E 定価550円(本体534円)